

持続可能な農村のつくり方 ～診断・合意・組織～

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長
上越市創造行政研究所 所長(兼務)
藤山 浩

2023年
11月6日

1. 自治体、地域の人口シミュレーション～田辺市
2. 宮崎県美郷町の挑戦
3. 農業従事者シミュレーション～和歌山県
4. 県全体をつないだ農村の担い手づくりプロジェクト
5. 次世代の定住、就農を実現する組織づくりとは？
6. 「地域計画」の作成へ



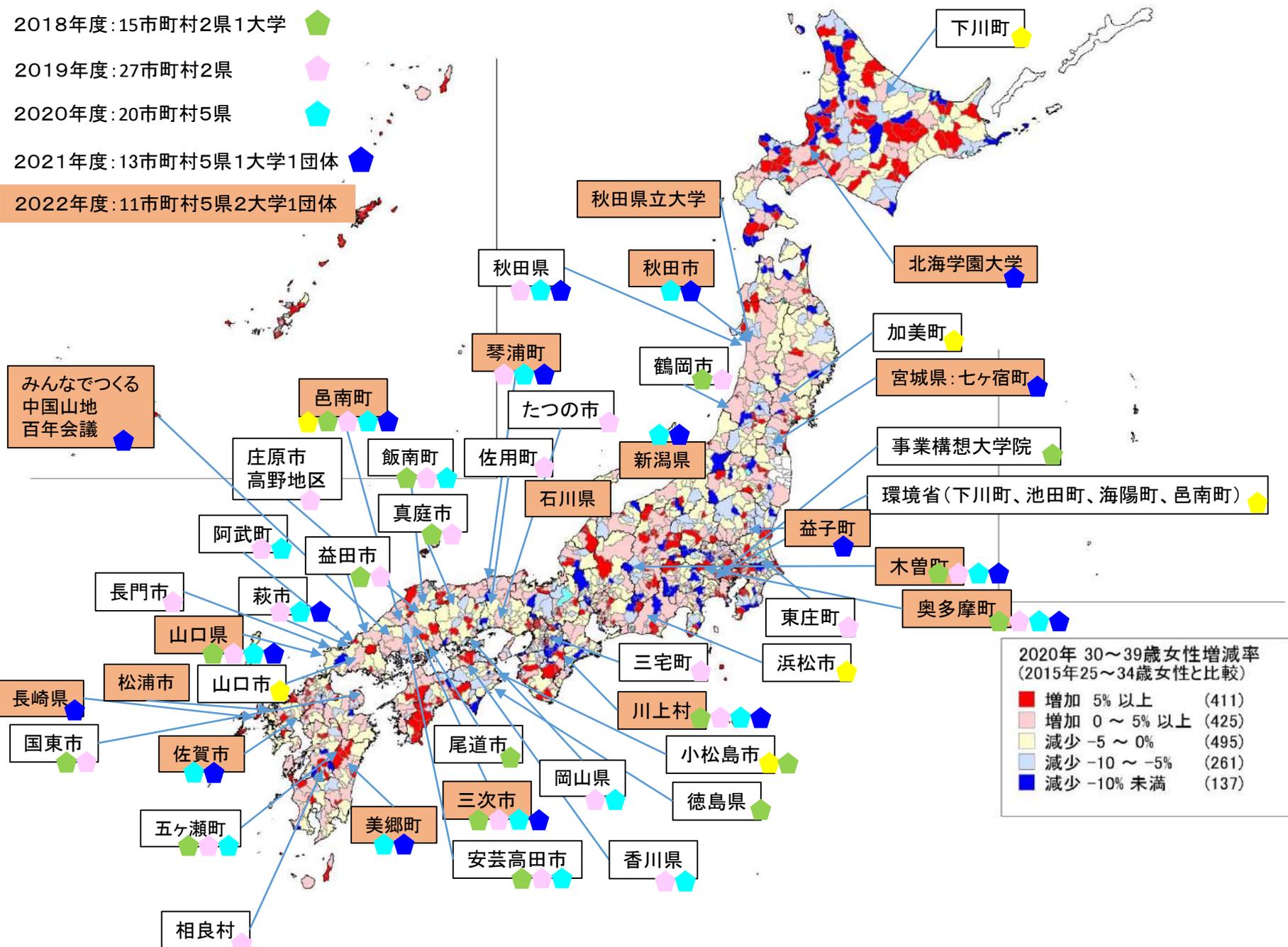
自宅は日本一の清流のそば



研究所は美しい日本海のそば

持続可能な地域社会総合研究所 共同研究実施地域

- 2017年度: 8市町村1省庁 ◆
- 2018年度: 15市町村2県1大学 ◆
- 2019年度: 27市町村2県 ◆
- 2020年度: 20市町村5県 ◆
- 2021年度: 13市町村5県1大学1団体 ◆
- 2022年度: 11市町村5県2大学1団体 ◆



2020年 30～39歳女性増減率
(2015年25～34歳女性と比較)

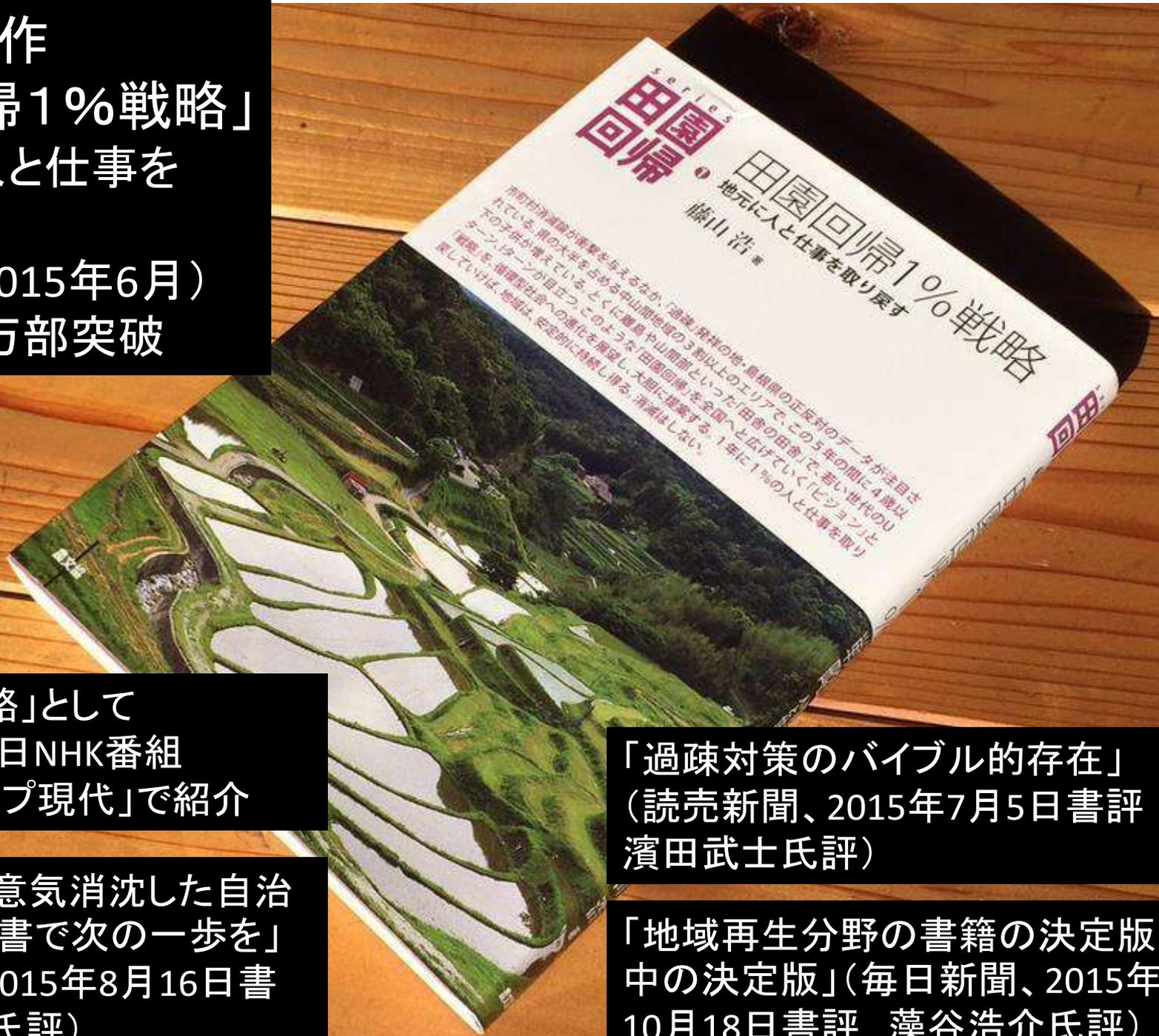
■ 増加 5% 以上	(411)
■ 増加 0～5% 以上	(425)
■ 減少 -5～0%	(495)
■ 減少 -10～-5%	(261)
■ 減少 -10% 未満	(137)

クローズアップ現代 8月3日(水)19:30～ 「移住新時代 過疎地域にチャンスあり」



都会を離れ、過疎地にこそ自分の可能性を伸ばすチャンスがあると気づき始めた若者たち。
“移住新時代”に変貌を遂げる過疎地域、そこに暮らす若者たちの価値観・生き方の変化を見
つめます。■スタジオ出演 藤山 浩 ■キャスター 桑子真帆(アナウンサー)

最近の著作
「田園回帰1%戦略」
～地元の人と仕事を取り戻す～
(農文協、2015年6月)
全国で1万部突破



「移住1%戦略」として
2015年12月9日NHK番組
「クローズアップ現代」で紹介

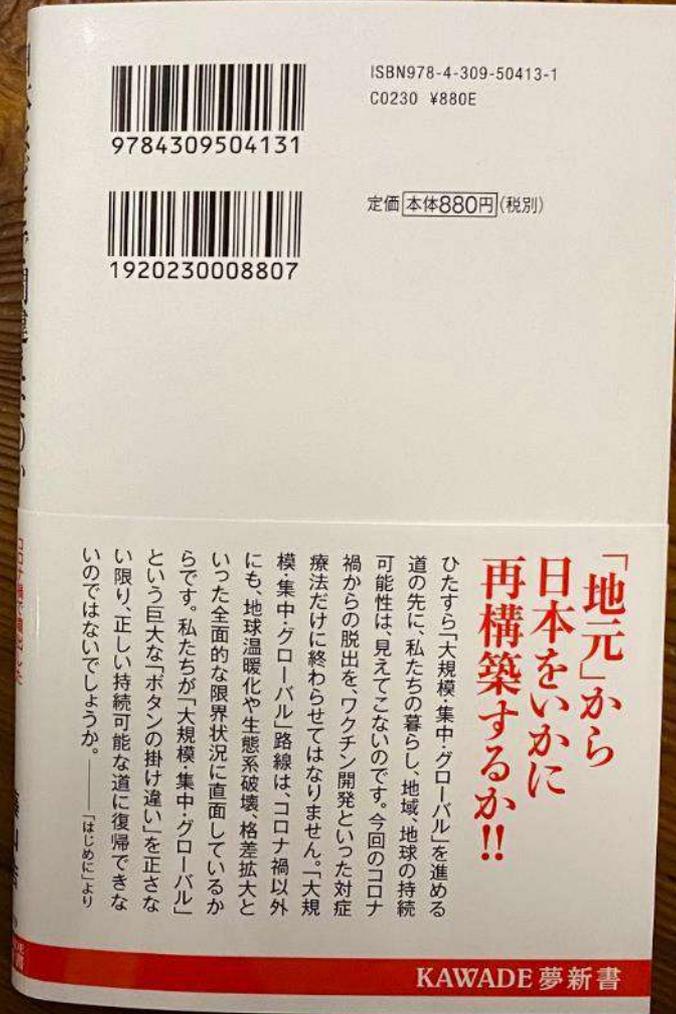
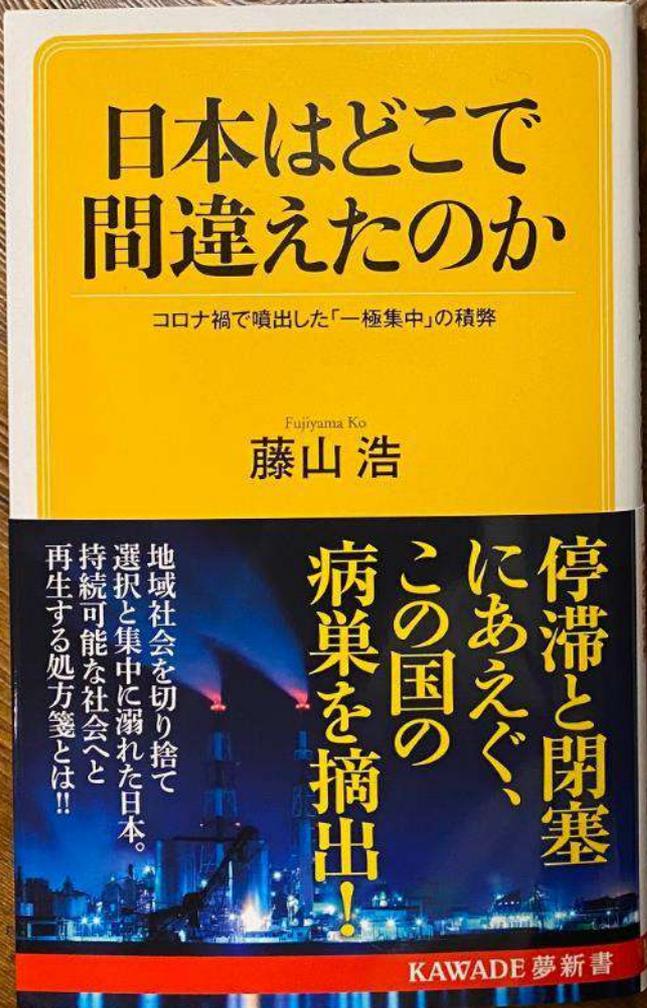
「『消滅論』で意気消沈した自治
体にぜひ、本書で次の一步を」
(朝日新聞、2015年8月16日書
評 諸富 徹氏評)

「過疎対策のバイブル的存在」
(読売新聞、2015年7月5日書評
濱田武士氏評)

「地域再生分野の書籍の決定版
中の決定版」(毎日新聞、2015年
10月18日書評 藻谷浩介氏評)

日本の「失敗の本質」を年代ごとに総括。

毎日新聞 今年の3冊」として
紹介（藻谷浩介氏）



脱「極集中」戦略を
地元の創り直しから実現

地域社会を切り捨て
選択と集中に溺れた日本。
持続可能な社会へと
再生する処方箋とは!!

停滞と閉塞
にあえぐ、
この国の
病巣を摘出!

KAWADE 夢新書

KAWADE 夢新書

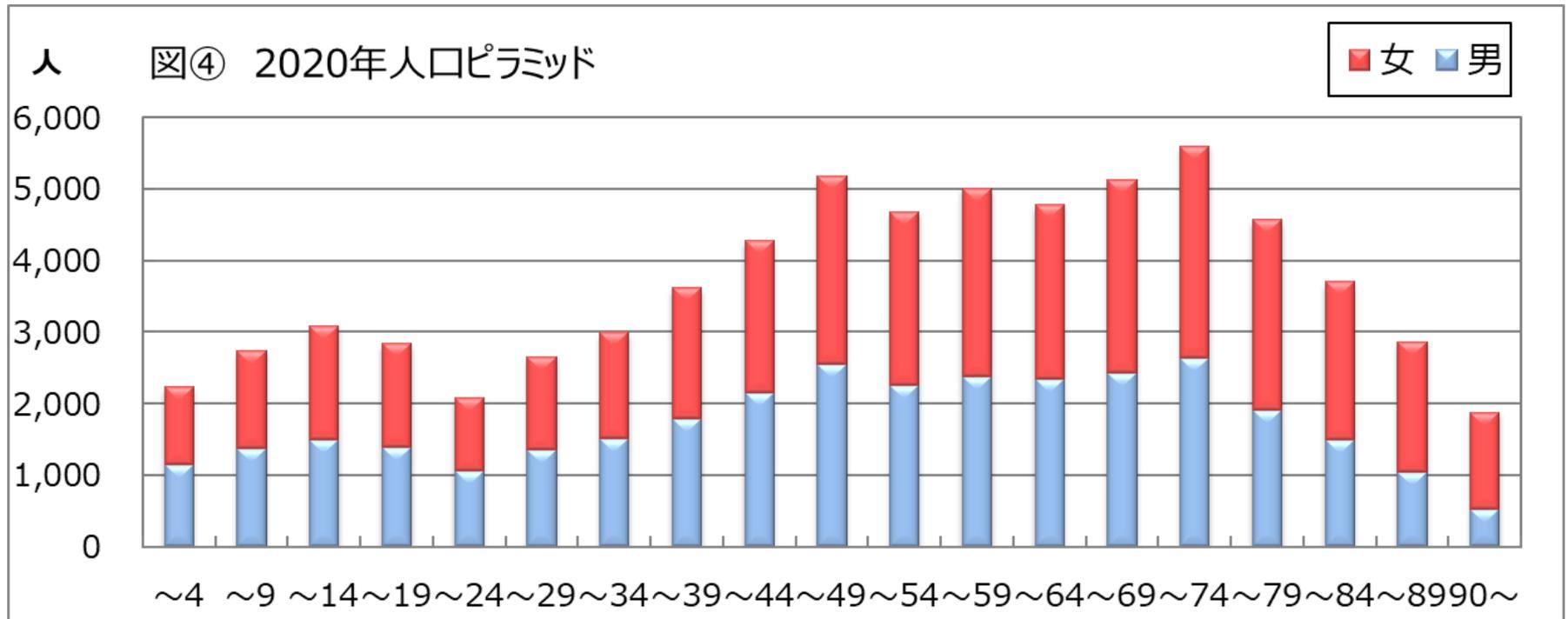
2020年10月30日発売～河出書房新社～

1. 自治体、地域の人口シミュレーション～田辺市

(1) 現状分析

* 2015年・2020年の
国勢調査に基づく

①現在の年齢構成

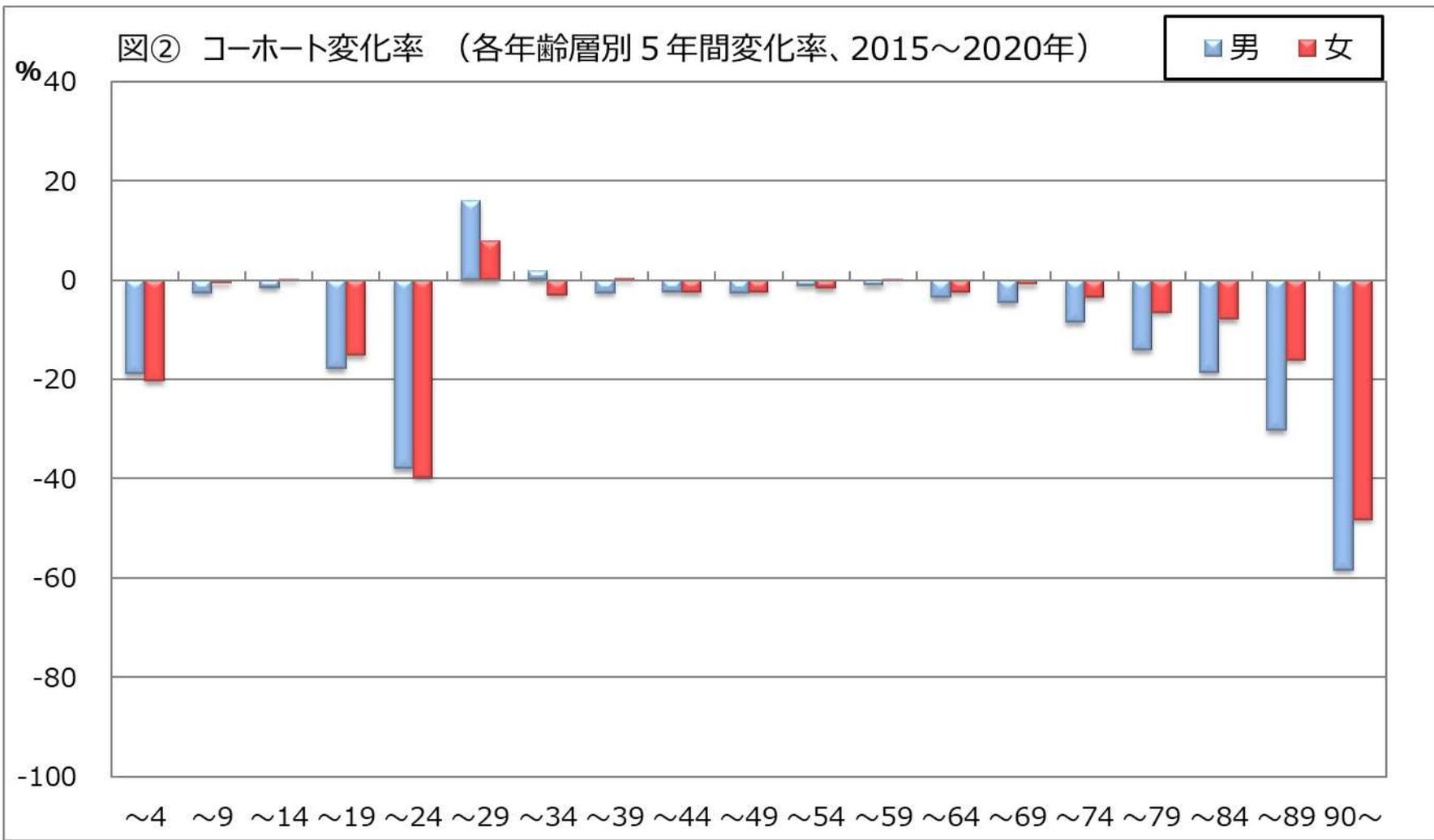


人口69,870人、高齢化率34.0% (75歳以上18.6%)

70代前半が主力世代

この5年で次世代定住と老後も安心な地域づくり

②年齢階層別の人口増減(流出入)率



20歳前後の流出超過をその後の世代で取り戻せていない (特に女性)。放置すると今後、急速な少子化へ。

(2) 将来予測 ＜現状推移 シナリオ＞

このまま進むと

人口減少

(30年間で4割減)

高齢化

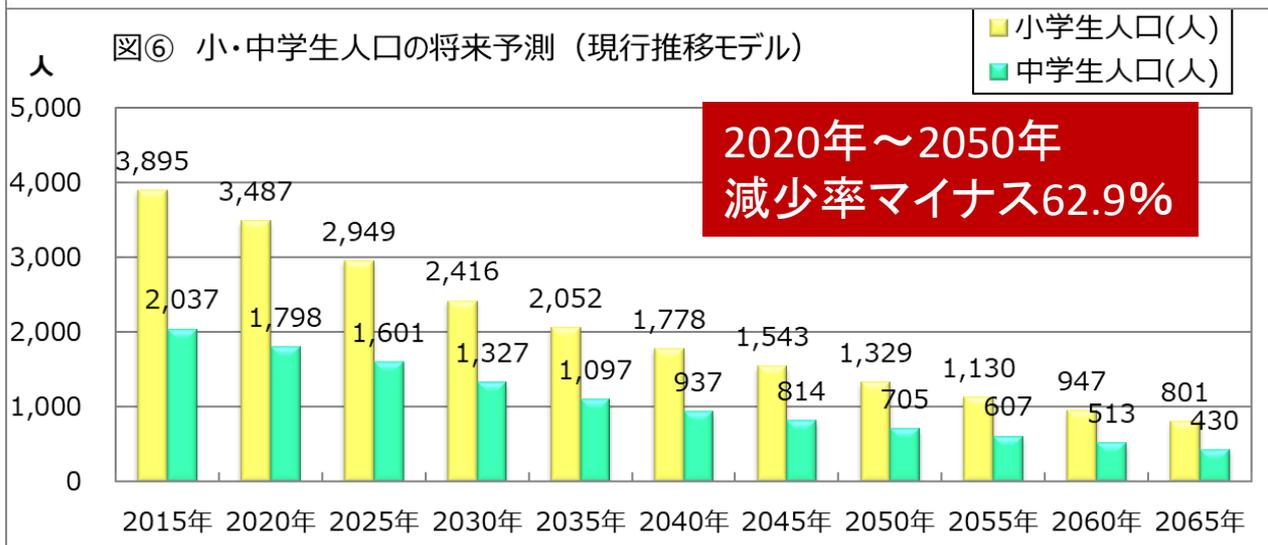
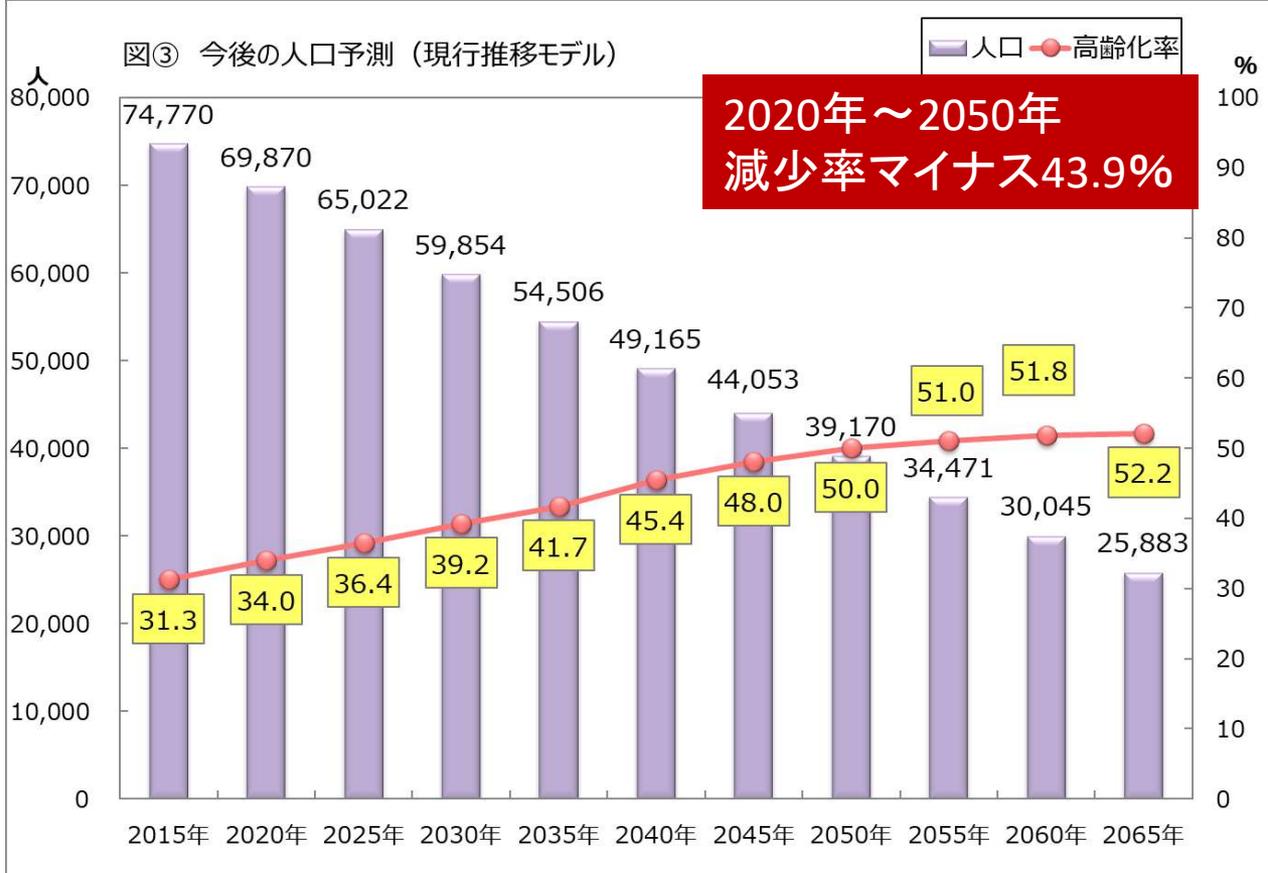
少子化

(小学生は30年間で

6割減)

に歯止めが

かからない！



(4) 組み合わせ最適シナリオ例

【出生率・流出率・定住増加】の3つを組み合わせ最適シナリオが検討してみる。

●出生率: 1.80に向上(現在は、1.59)

●流出率: 10代後半～20代前半の流出率は
男38%、女40%と現状維持

●定住増加組数:

現在人口の0.9%分増加(住民111人に1人)

20代前半男女1組(2名)



85組

30代子連れ夫婦1組(3名)



85組

60代定年帰郷夫婦1組(2名)



85組

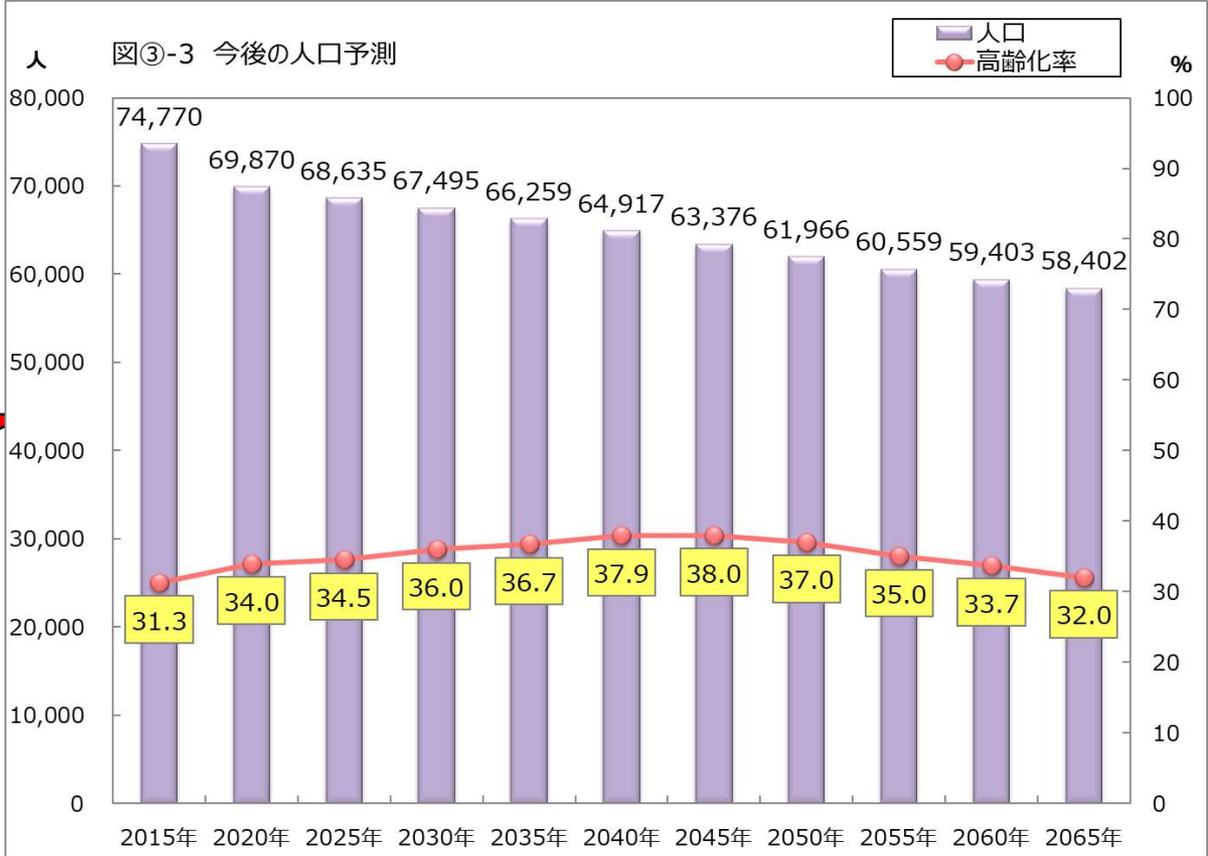
合計

255組

595人

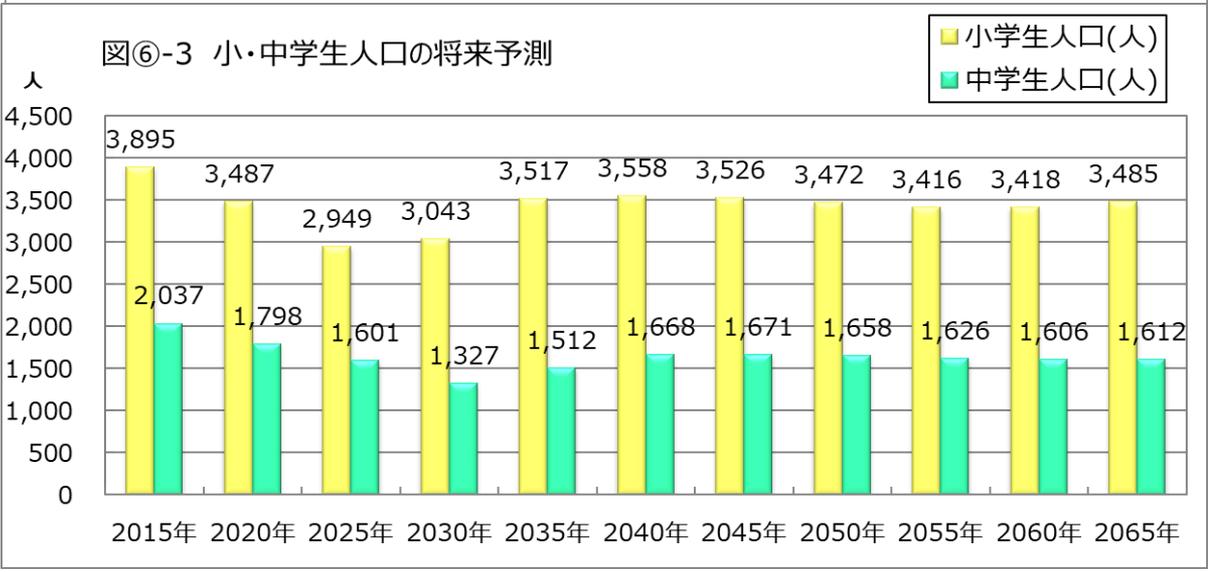
①今後の人口・高齢化率予測

6万人弱
でほぼ
安定

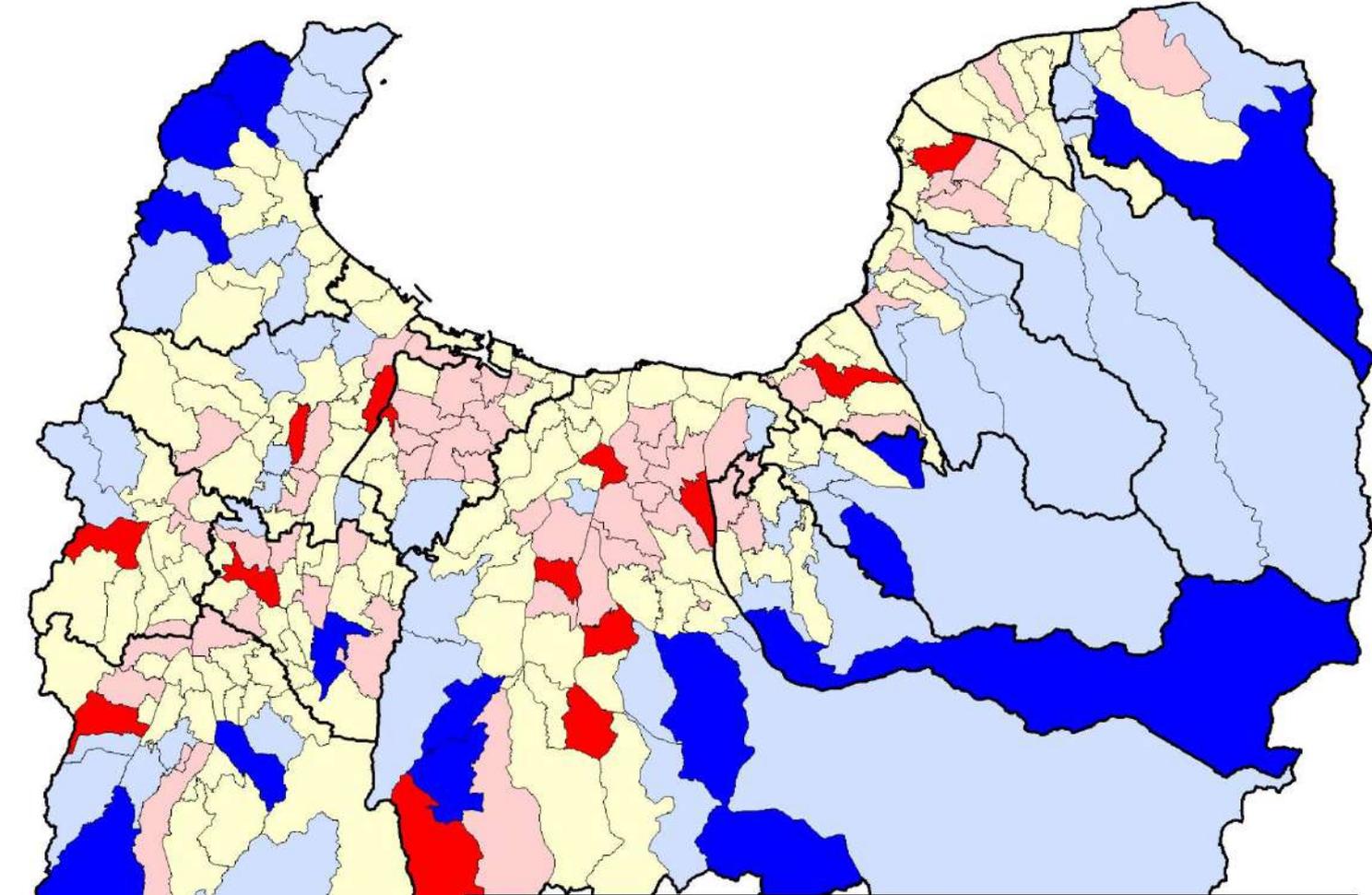


②小・中学生の人口予測

小・中学生数は
現行水準で
安定へ



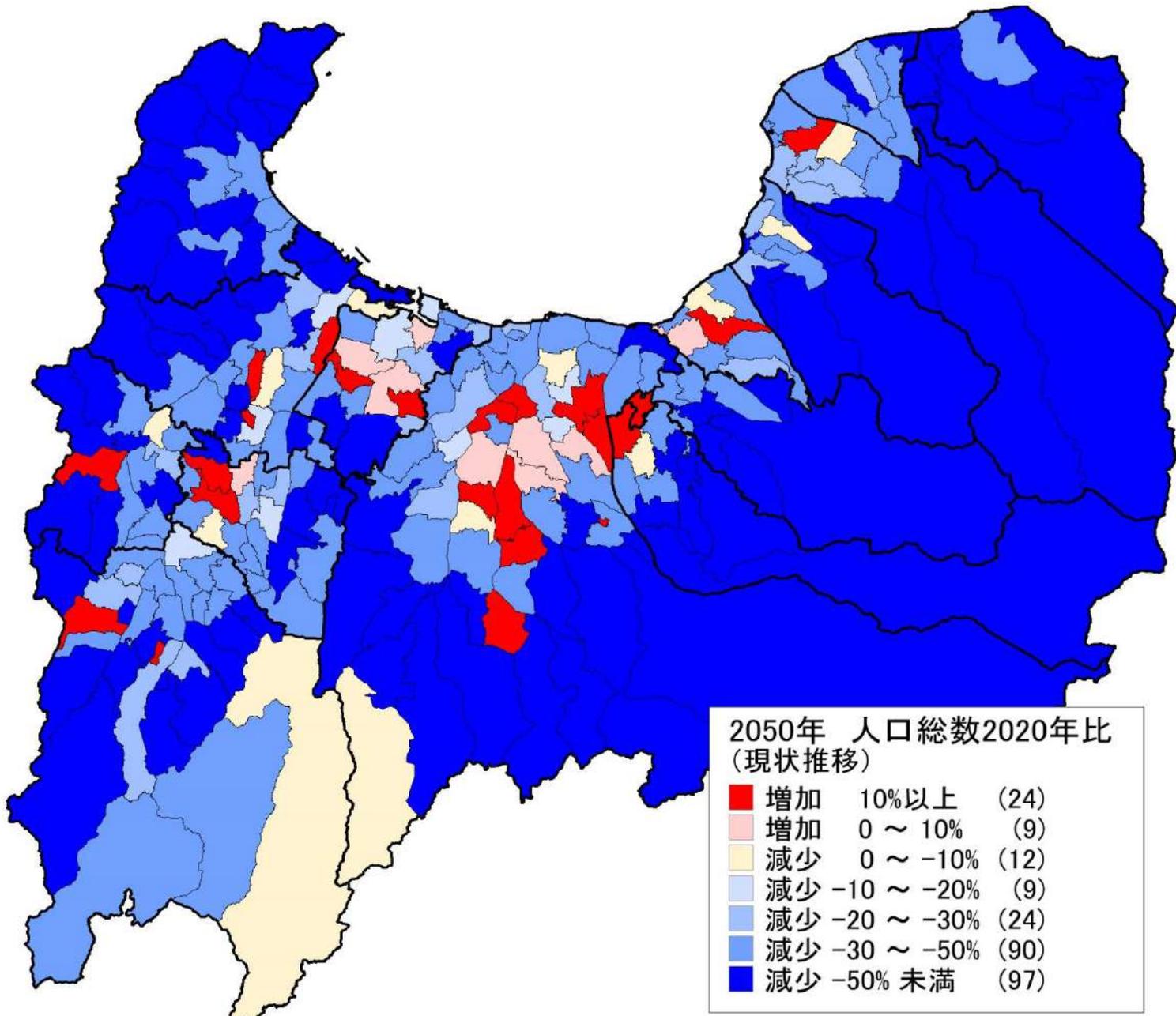
■富山県の全県地区別人口診断例～①2020年 社会増減率



社会増減率
(2015年0～64歳と2020年5～69歳を比較し自然減は除く)

■ 増加 5% 以上	(14)
■ 増加 0 ~ 5%	(55)
■ 減少 -5 ~ 0%	(131)
■ 減少 -10 ~ -5%	(52)
■ 減少 -10% 未満	(13)

富山県の全県地区別人口診断例～②2050年 人口増減率予測



2. 宮崎県美郷町の挑戦

3年間で全24行政区で地区別定住戦略策定

■7月29～31日

■事前実施 行政区の人口診断

行政区ごとの地域活動ヒアリング&現地視察

合計3時間程度、定住状況や主な組織・団体・活動の現状についてお聞きすると共に、地域内をご案内いただきます。

●お願いしたいこと

地区ごとに、地域内の主な組織・団体・活動の現状についてお詳しい方、2～3名でのご対応をお願いします。また、現地内のご案内にも同行ください。



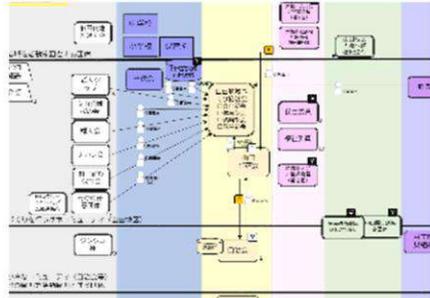
■8月中

地元関係図の作成

行政区内の主な組織・団体・活動・事業について、相互の関係や人、お金の流れ等を、一緒にまとめ、今後の地域ぐるみの定住や子育て、福祉などの事業展開に役立てていきます。

●お願いしたいこと

地域全体の動き、関係性の概要をご存じの方、主な事業組織について仕事の内容についてご存じの方と、電話やメールでやりとりして仕上げていきます。



■10月中旬以降

行政区ごとの未来会議「地元天気図」WS他

各行政区で年代別の増減の背景を考え、定住を増やす上での強みと弱みを検討し、今後の定住促進の方向を考えます。

●お願いしたいこと

各地区で若手(20代～子育て世代)とベテラン(50代～70代)の各4～6人、2グループでお集りいただき、話し合ってください。



ご報告

■11月以降

行政区ごとの報告会

本年度の予測や分析、検討成果を報告し、地区全体で共有し、今後の地区別定住戦略につなげていきます。

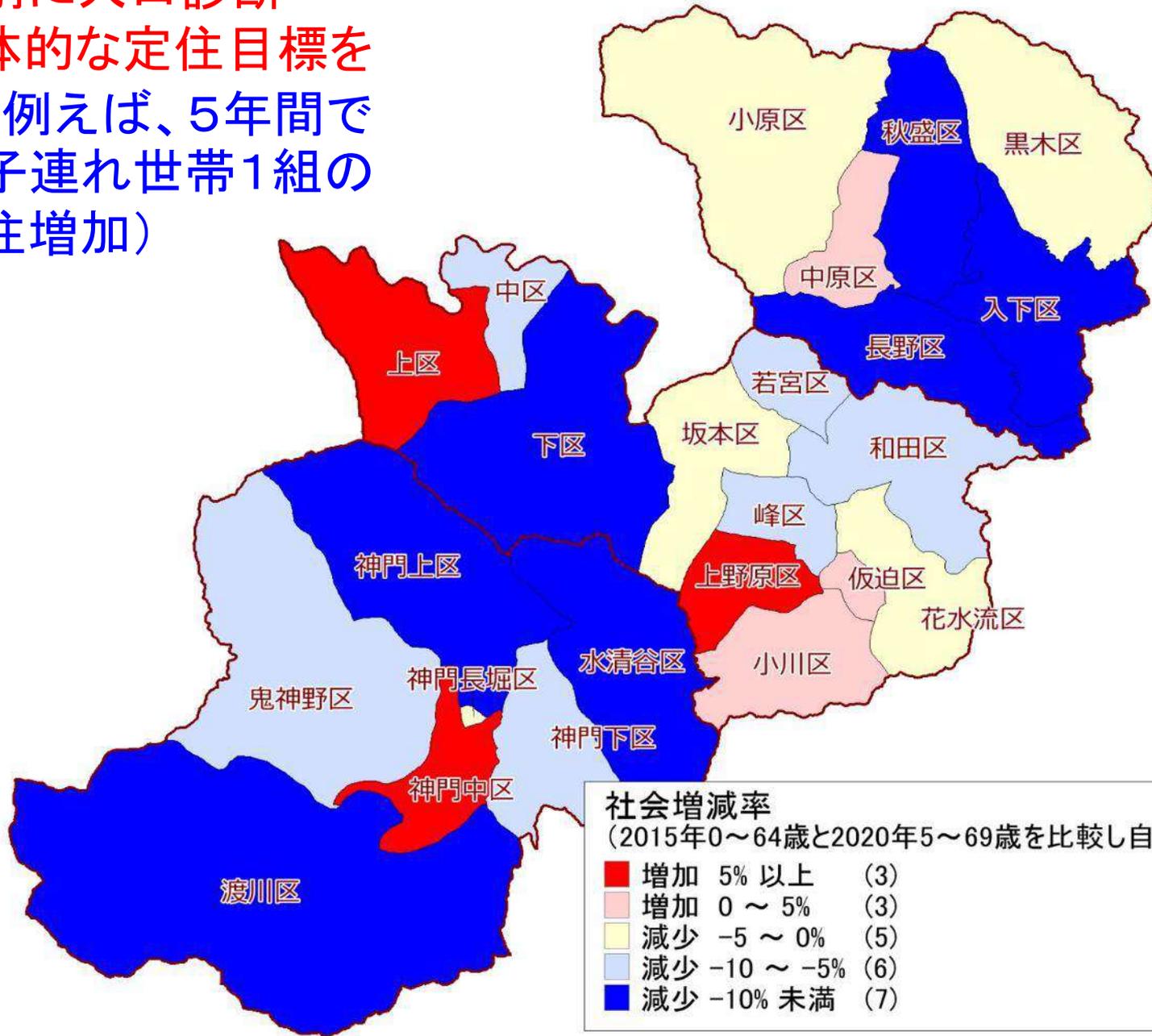
●お願いしたいこと

できるだけ幅広い住民の方に参加できる内容、時期、日時、場所を設定したいと考えています。



地区別に人口診断

→具体的な定住目標を共有(例えば、5年間で30代子連れ世帯1組の定住増加)



社会増減率
(2015年0~64歳と2020年5~69歳を比較し自然減は除く)

■ 増加 5% 以上	(3)
■ 増加 0 ~ 5%	(3)
■ 減少 -5 ~ 0%	(5)
■ 減少 -10 ~ -5%	(6)
■ 減少 -10% 未満	(7)

美郷町における地元天気図ワークショップ

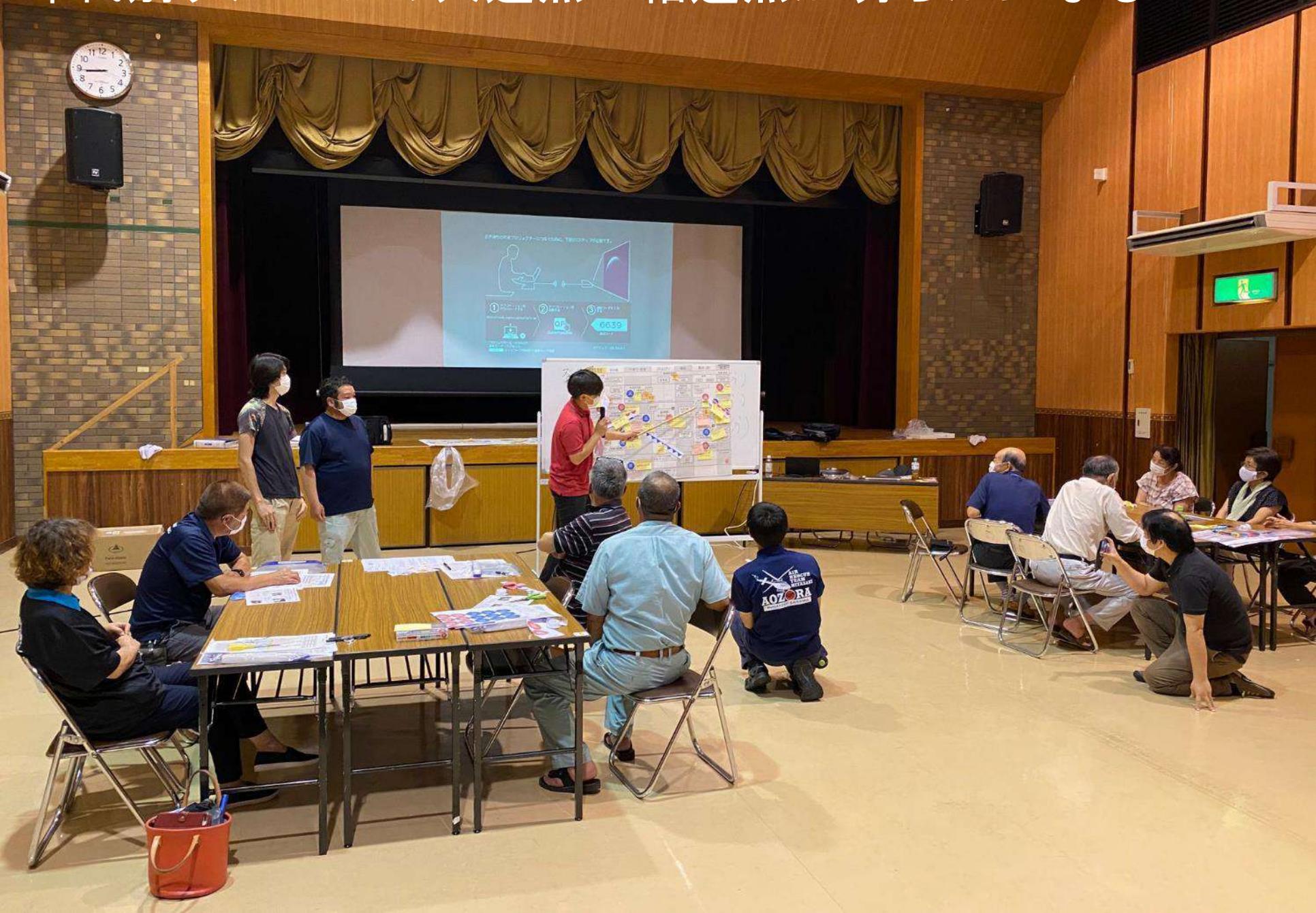


地区ごとにベテラン、ヤング、職員チームで取り組む

グループワークの様子～熱が入り、立ち上がり、話す



年代別グループの共通点・相違点が明らかになる



24地区の色 & 漢字 & ポスター & 動画を揃えて多彩な魅力を発信！

宮
崎
県

住

美
郷
町

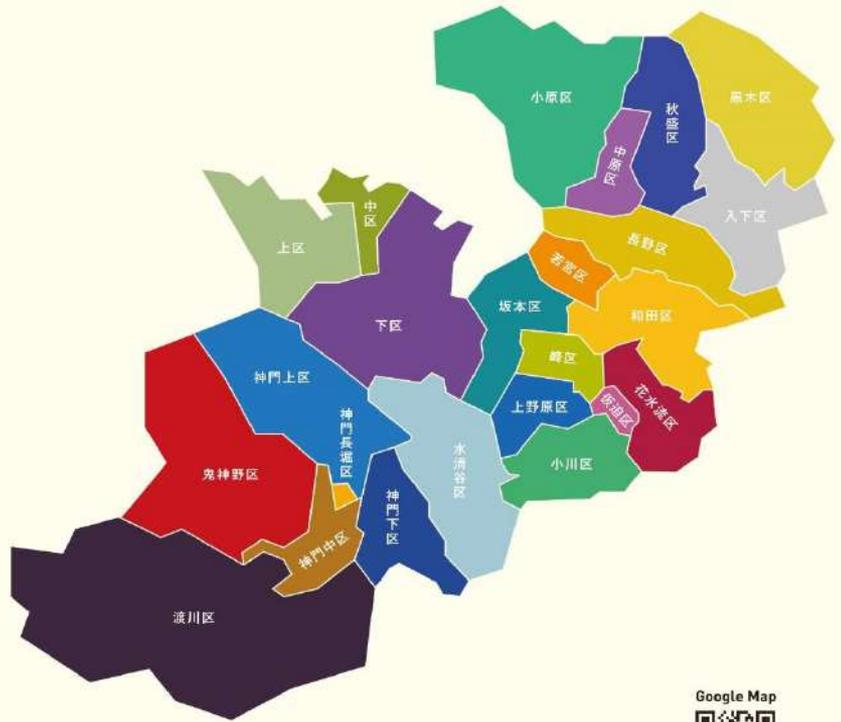
22世紀のふるさとを目指して Official Site

同じ町でも、地区によって魅力も課題も違うから、自分たちで地区の未来を築いていく。いつまでも、美しく住みよい場所にするために、「ちくせん」は、24区ごとに町長が自ら戦略を立てて取り組んでいる活動です。

MISATO TOWN

山 小原区	集 中原区	楽 秋野区	盛 秋盛区	伝 入下区	繼 黒木区
上 上区	神 若宮区	和 和地区	結 結区	花 花水流区	話 坂迫区
空 中区	桜 下区	滝 坂本区	光 上野原区	川 小川区	清 水清谷区
笑 渡川区	鬼 鬼神野区	群 神門上区	憩 神門長地区	中 神門中区	防 神門下区

MISATO TOWN MAP



MIYAZAKI MISATO TOWN MIYAZAKI MISATO TOWN MIYAZAKI MISATO TOWN MIYAZAKI MISATO TOWN MIYAZAKI

MIYAZAKI MISATO TOWN MIYAZAKI MISATO TOWN MIYAZAKI MISATO TOWN MIYAZAKI MISATO TOWN MIYAZAKI

美郷町 24 区、アイデアいっぱいの活動をご報告！



▲鬼神野

森の駅を中心として地域を盛り上げていきます。夏の川遊び環境整備やクリスマスやハロウィンといった季節のイベントの会場としたり、土日祝日に営業している物産販売場や食堂の充実も進めます。



▲神門中

大きな柱としては、子ども達の遊び場づくり、キャンプ場、小丸川を活用した川遊び、無人販売所、漬物キムチづくりなどアイデアとして出ています。来年度、少しずつ、地区にあるものを活かしながら取り組んでいきたいです！



▲神門長堤

商店街が重要な地域資源であることを前提に、計画づくりをしました。「イルミネーション施策の拡大」がアンケートでも希望が多く、地区の動向向けにも点灯式を撮影したばかりです。子育てにやさしい地区づくりを考えていきます。



▲坂本

みんなが、おせりの滝を生かしていきたいと思っています。こども釣り大会など、楽しい行事をつくって、もっとを発信していきたいです！



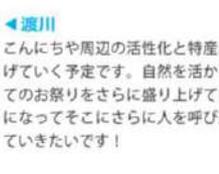
▲水清谷

キャンプ場から始めよう！ということでインスタグラムを立ち上げ、利用者にアンケート調査を行いました。商店街を活用して薪やキャンプ道具を販売しようという画策中です。また、地区の方に取り組みを知ってもらうため、クリスマス大作戦も実施しました。



▶神門上

国道沿いに商店やガソリンスタンド、居酒屋もあり住みやすい地区です。農業や畜産など産業も盛んです。春祭りや収穫祭などは参加率も高く、人のつながりを大切にしています。楽しく賑やかに盛り上げます！



▶仮迫

月1回集まり、話し合いをてきました。今地区でやっていることから、ちくせんに取り組んでいきます。まずは自分たちの地区を知ることからスタートです！



▲神門下

子ども達の数が多く、元気な笑い声が響きわたる地区です。これから、小丸川を軸に、地区内外の方が小丸川を堪能できるような遊び場をつくったり、子育て支援など、皆が住み続けたい地域づくりを行っています！



▲若宮

「夏」若宮の田園風景を楽しみながら歩く、ウォーキングコースの設置に向けて動きました。「秋」稲刈りが終わったあとの若宮に、賑やかな栗山子が参上しました！地区内外向けの情報発信にも力を入れ、皆で楽しみながら、一歩ずつ進んでいきます！



▶秋盛

毎回、熱量の高い話し合いを進めてきた秋盛区。地区別報告会では、区長の挨拶の後、会の終了後も自然と円陣ができて話が活発に行われました。「北の郷」を活用していく案、助け合いを軸にした農林業の魅力を高める活動など、これから具体的に進めていきます。



▶峰

10/16に3本柱のひとつである田代小学校跡の草刈りイベントを実施しました！色々な方や団体と協力しながら、ハロウィンやクリスマスなど子ども達にも楽しんでもらえる取り組みも行いました。これから、田代小学校跡を拠点に色々なイベントを企画すべく、毎月皆で話し合っています。

◀渡川

こんにちや周辺の活性化と特産品作りを中心に盛り上げていく予定です。自然を活かした活動と地区をあげてのお祭りをさらに盛り上げていきます。住民が元気になるってそこにさらに人を呼び込めるような取組をしていきたいです！



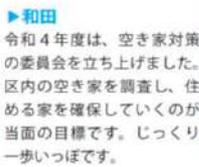
▲花水流

恒例のかかし村。今年も多くの村民が期間限定で出現。道行く方が足を止めて、かかし村の様子を見に来てくださいました！彼岸花の時期にライトアップ行ったり、地区内の公園に花のプランターを設置しました。「楽しさいっぱい！花いっぱい！」の地区づくりが進行中です。



◀中

こちらから、出身者の多い日向や延岡に向いて「村人会」を開くのいなあと考えています。情報交換、交流の場、さくら会のお土産販売もしたいです。美郷でのイベントにも来てもらえるよう企画します。



▶和田

令和4年度は、空き家対策の委員会を立ち上げました。区内の空き家を調査し、住める家を確保していくのが当面の目標です。じっくり一歩いっぽです。



◀入下

ひまわり畑プロジェクトを皮切りに早朝のお散歩会や、「しめ縄づくり」等地域の方々と一緒に取り組む事が出来ました。入下郵便局に無人販売所もオープンし、買い物支援も実現。来年も SNS や季刊誌等で皆さんにお知らせしながら、地域に根差した取組みに頑張ります！



▶中原

今年度はインスタグラムでの発信、商店街の地図の作成や地区内の空き家の把握、西野々公園内の小川に蜚の幼虫の放流等を実施しました。来年度は、西野々公園の蜚事業をさらに進め、地区内の空き家バンクの登録件数が増えるように空き家検討委員会でアプローチをしていきます。人が集まる事業を行いたいと思います。



地区別戦略会議『中原ちくせんに』



▲小川

夏は河川プールの更衣室管理をちくせんで担当しました。8月に開催した魚つかみどり大会は大盛り上がり！6月にみんなで田植えし、11月のもちつき大会でついたお餅は最高でした。



▲上野原

ひまわり畑でスケッチコンテストを行いました。ご応募ありがとうございました！ゴンゲンファームでは放牧に合わせて撮影会をしています。皆さん会いに来てください！



◀上

台風の被災などで大変ですが、「今やれることをやろう」と思っています。上区には魚釣り名人がいて、子どもたちに魚釣り講習会をやってみて下さい。



▶下

地区をどうしていきたいのか、熱いメンバーが集まって話し合っています。来年度は、小組合ごとにちくせん集会(報告会)を開いて、地区全体の方と想いを共有して進めていきます！



◀小原

町外の方も交えた「松ヶ下もみじ林道清掃・PR活動」や「ちくせん空き家物件案内」、区民間の交流を図る「小原区の未来を語る会」等に取り組まれました。移住者の確保、関係人口の増加につながっています。魅力発信、観光資源の活用を入れていきたいです。



▲黒木

「移住増」を一番の目的とするのではなく、まずは「魅力的な地区づくり」を目的にしたいと考えています。一方で20代の移住者も増えています。旧黒木小を拠点とした活動を考えていく予定です。



▲長野

皆が集まれる場所づくりとしての中核施設整備の話し合いなどを重ねてきました。来年度からは実践に向けて、より地域との交流、伝統を大切に地区全体を盛り上げていきたいです。

ちくせん交流会～24地区が集まり、戦略や取り組みを発表・交流



禁煙

立入区域等
今年度、入居区域の緑の拡大として2月4日
【緑作り】を開催しました。長年ご協力
御礼です。本日は、緑作りを兼ね、イベントの
マックスとして入居の皆さんと一緒にお
一大学生発表、入居者の皆さんが
一部別して地域活動として
なるイベントとなりました。

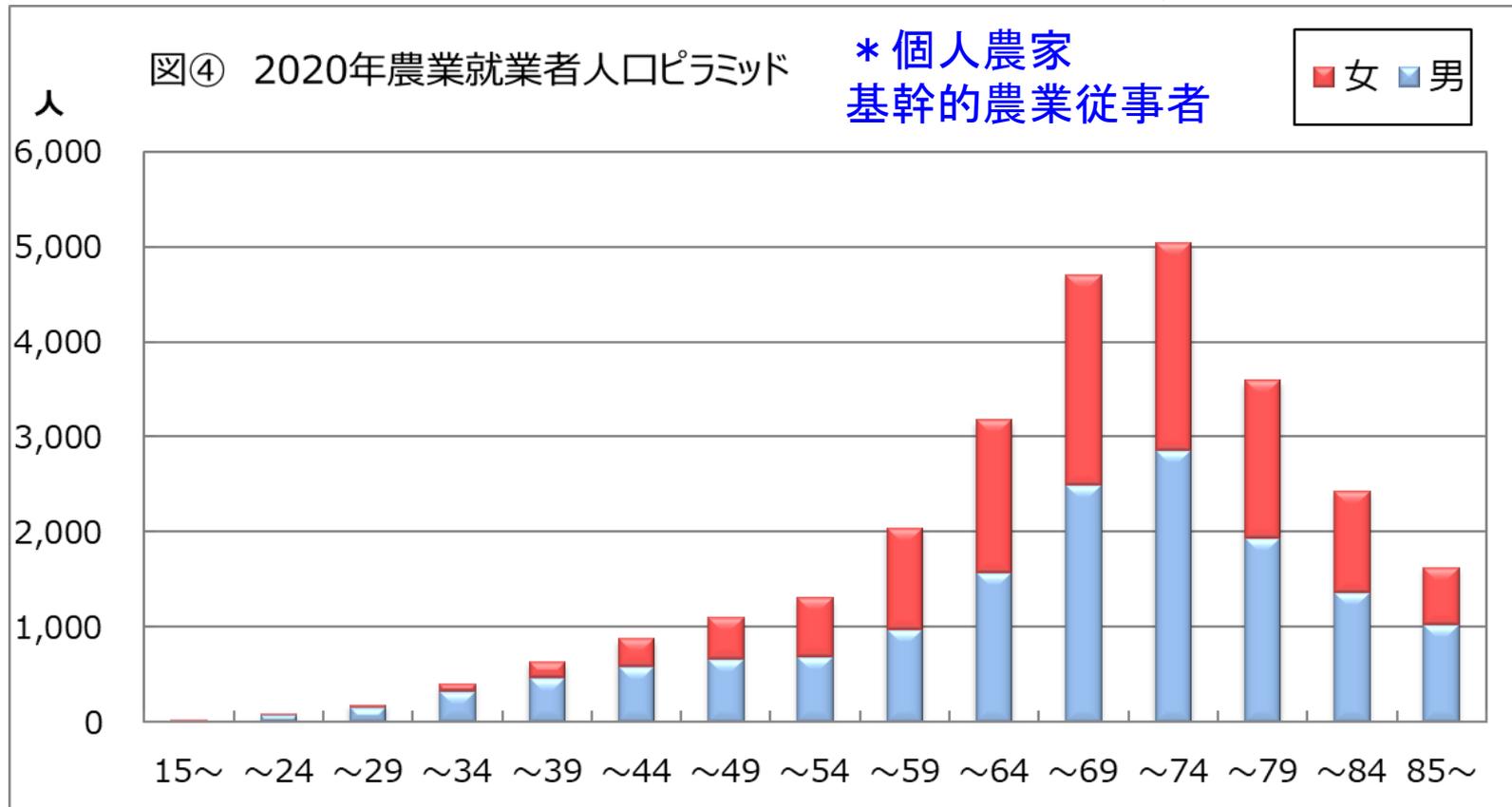
緑

交流会

3. 農業従事者シミュレーション～和歌山県

(1) 現状分析 ①現在の年齢構成

* 2015年・2020年の
農業センサスに基づく

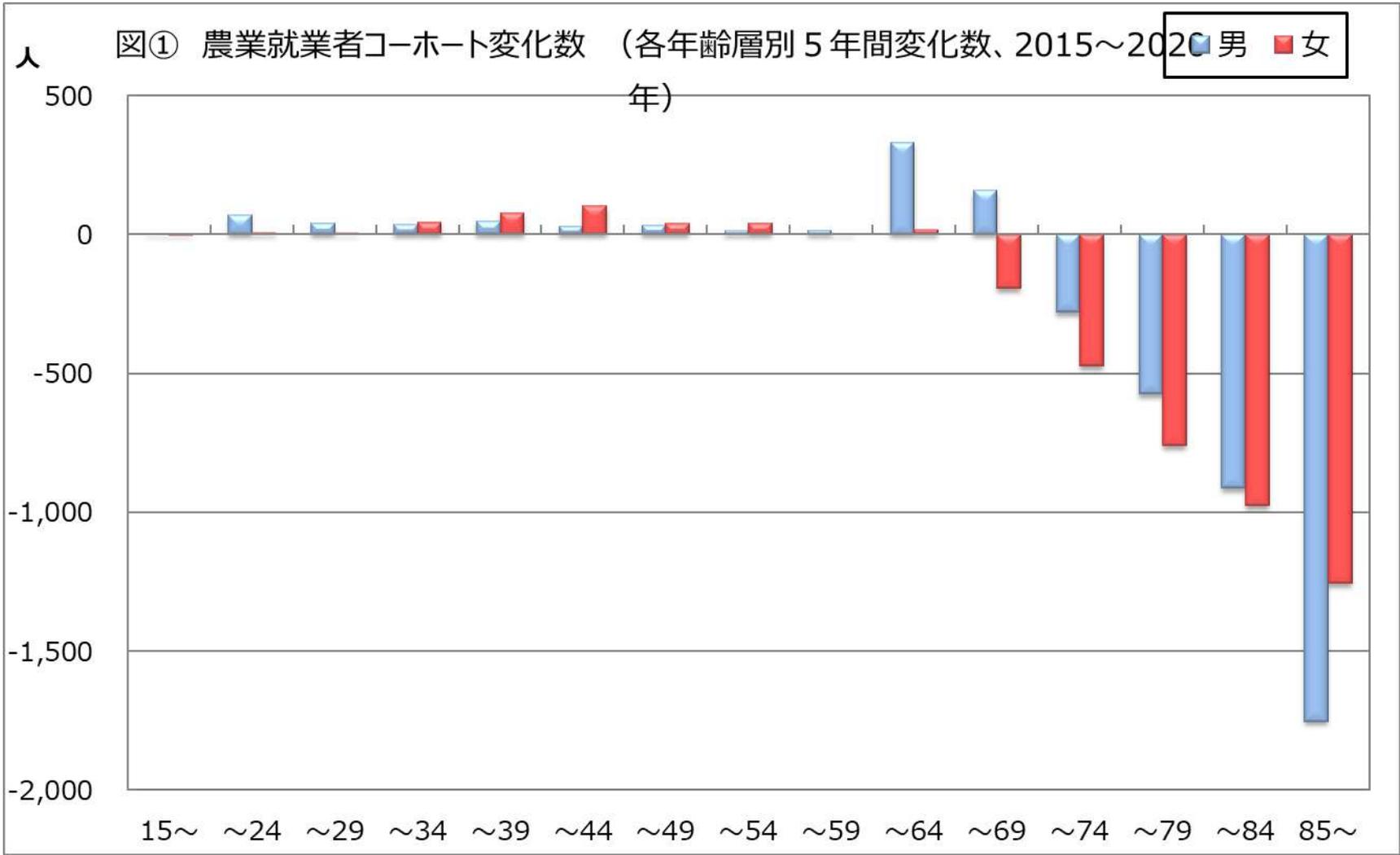


27,202人、高齢化率63.9% (75歳以上28.1%)

70代前半が主力世代 * 農業平均引退年齢76.7歳

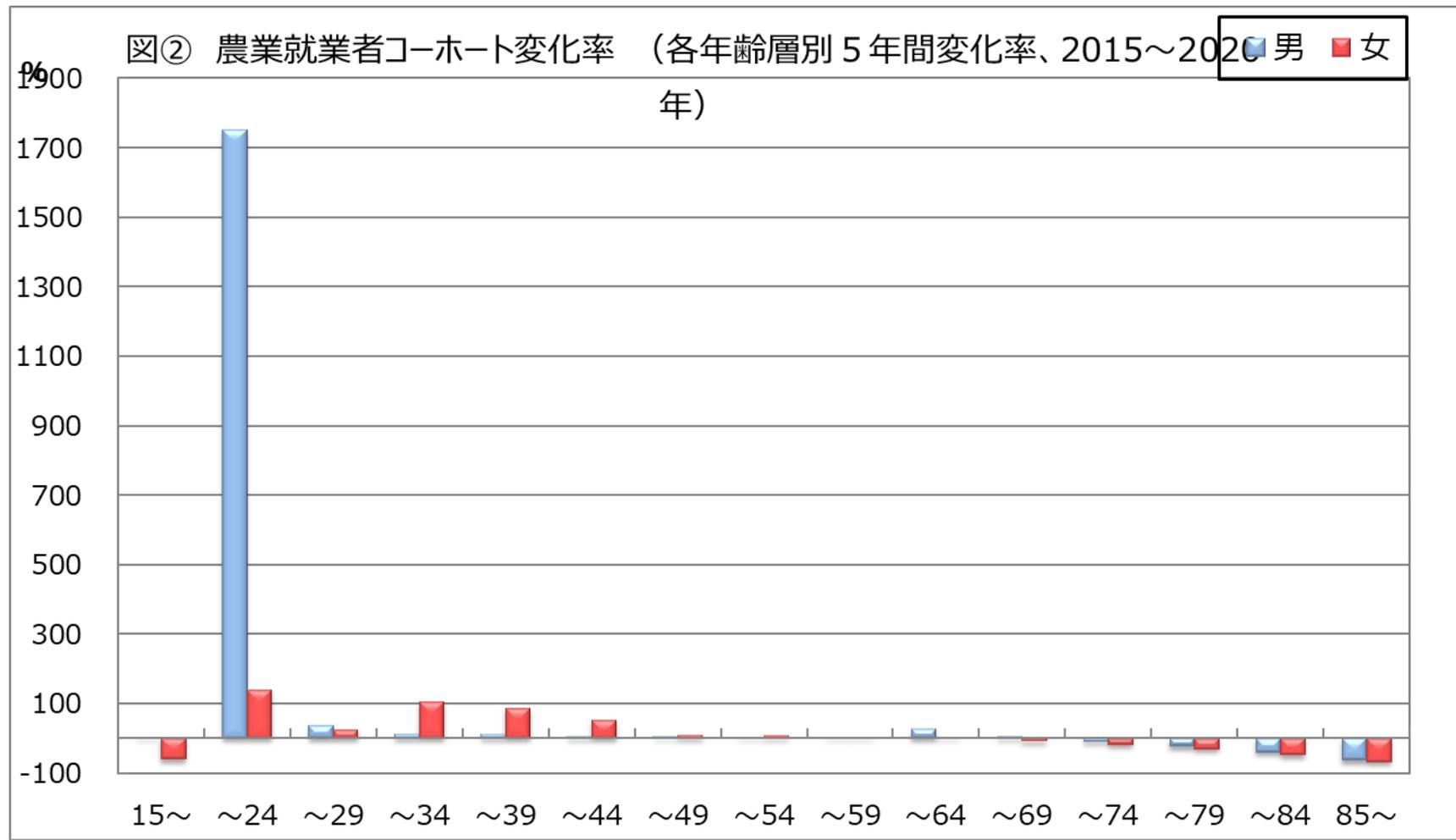
この5年で次世代の担い手確保不可欠

②の1：年齢階層別の人口増減（流出入）数



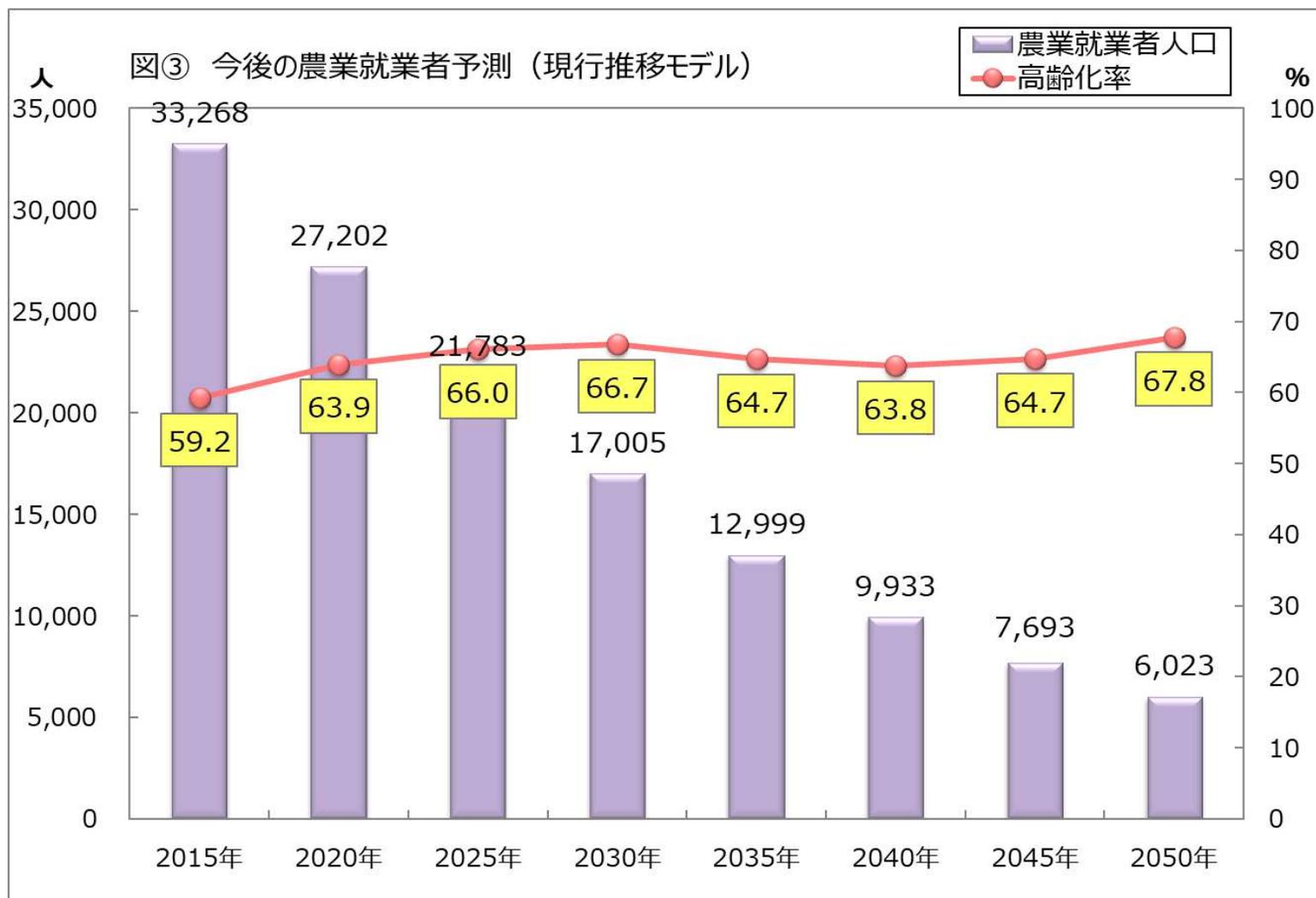
60代男性を中心に、新規就農あり。
 70代後半からは、農業からの大量引退が進行。

②の2: 年齢階層別の人口増減(流出入)率



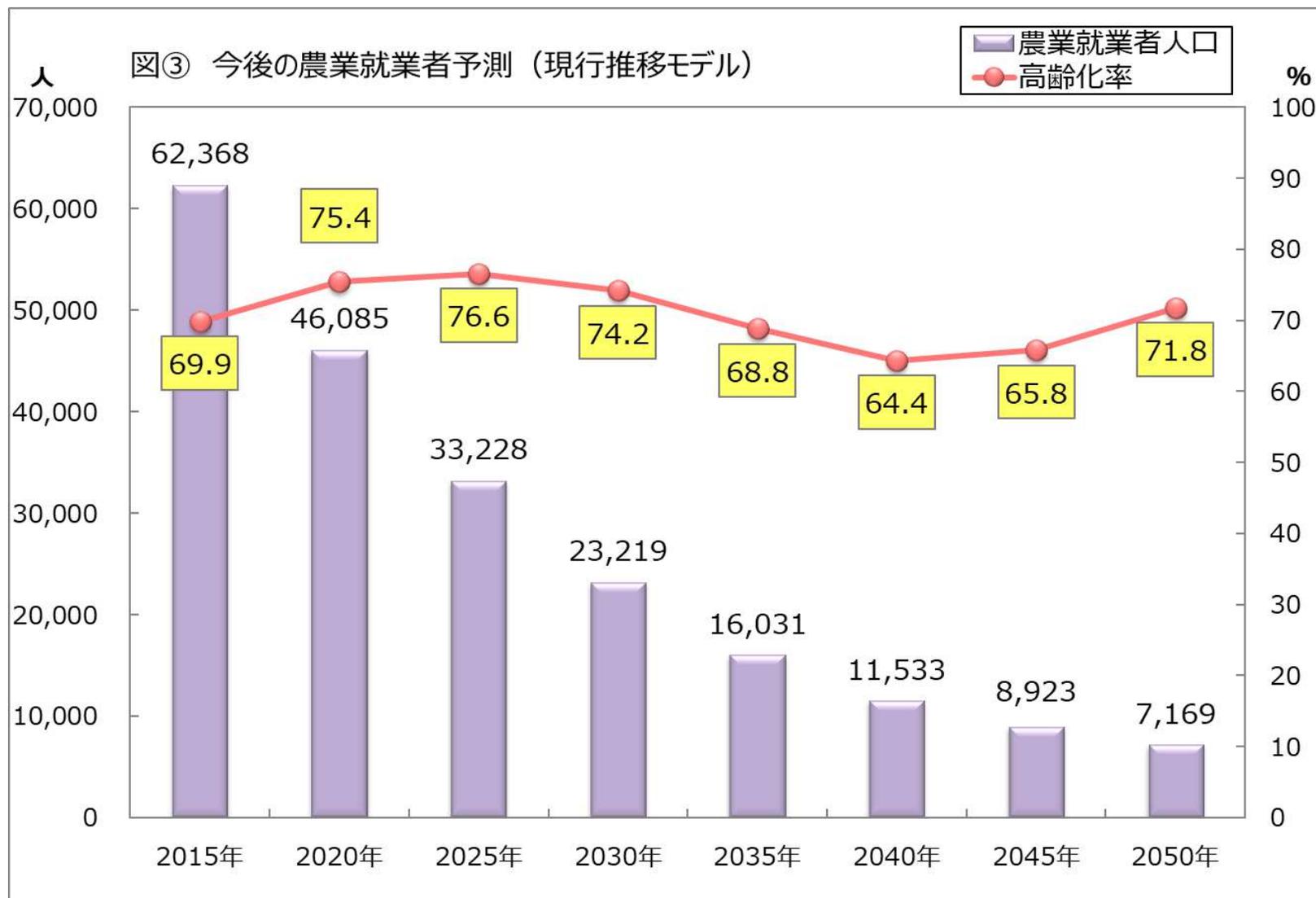
就農の伸び率は。20~30代が高くなっている。

(2) 将来予測 ①現状推移シナリオ



基幹的農業従事者は、15年でほぼ半減となる見込み。
高齢化率は高止まりする(60代の就農者が多いため)。

* 比較 新潟県全体 将来予測 ①現状推移シナリオ



10年間で、基幹的農業従事者が半減以下となり、下げ止まりが見えない。高齢化率は、それほど変わらない。

(4) 組み合わせ安定化シナリオ

達成目標: 30年後(2050年時点において)、農業就業者数が現在の8割以上。

前提条件

● 15～19歳世代の就農比率:
20歳以上の就農者のほぼ0%分とする

● 就農増加組数:
現在の従事者の1.25%(80人に1人)

20代前半男女



各57人、計114人

30代前半夫婦1組(2名)



各57人、計114人

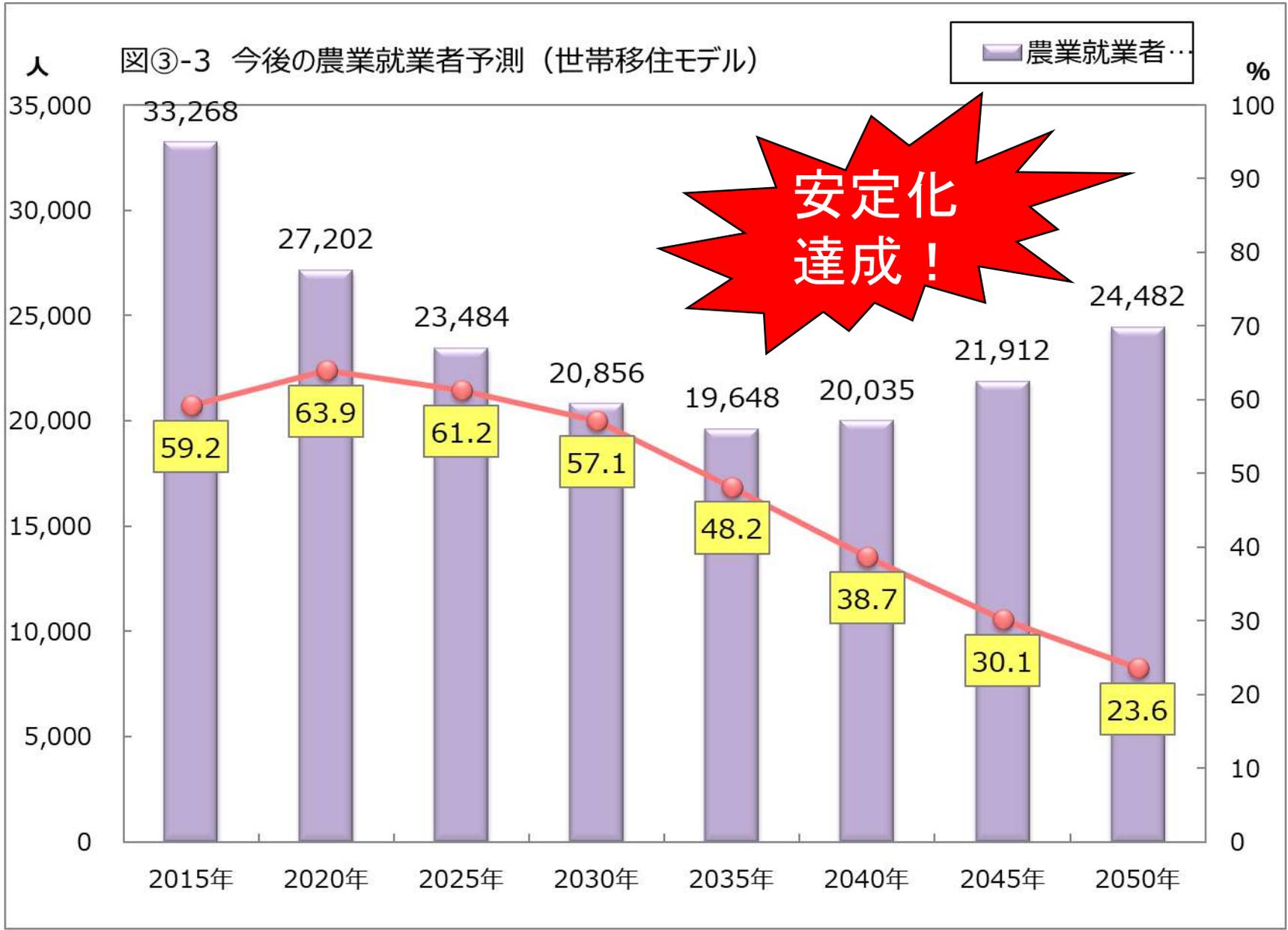
60代定年帰郷夫婦1組(2名)



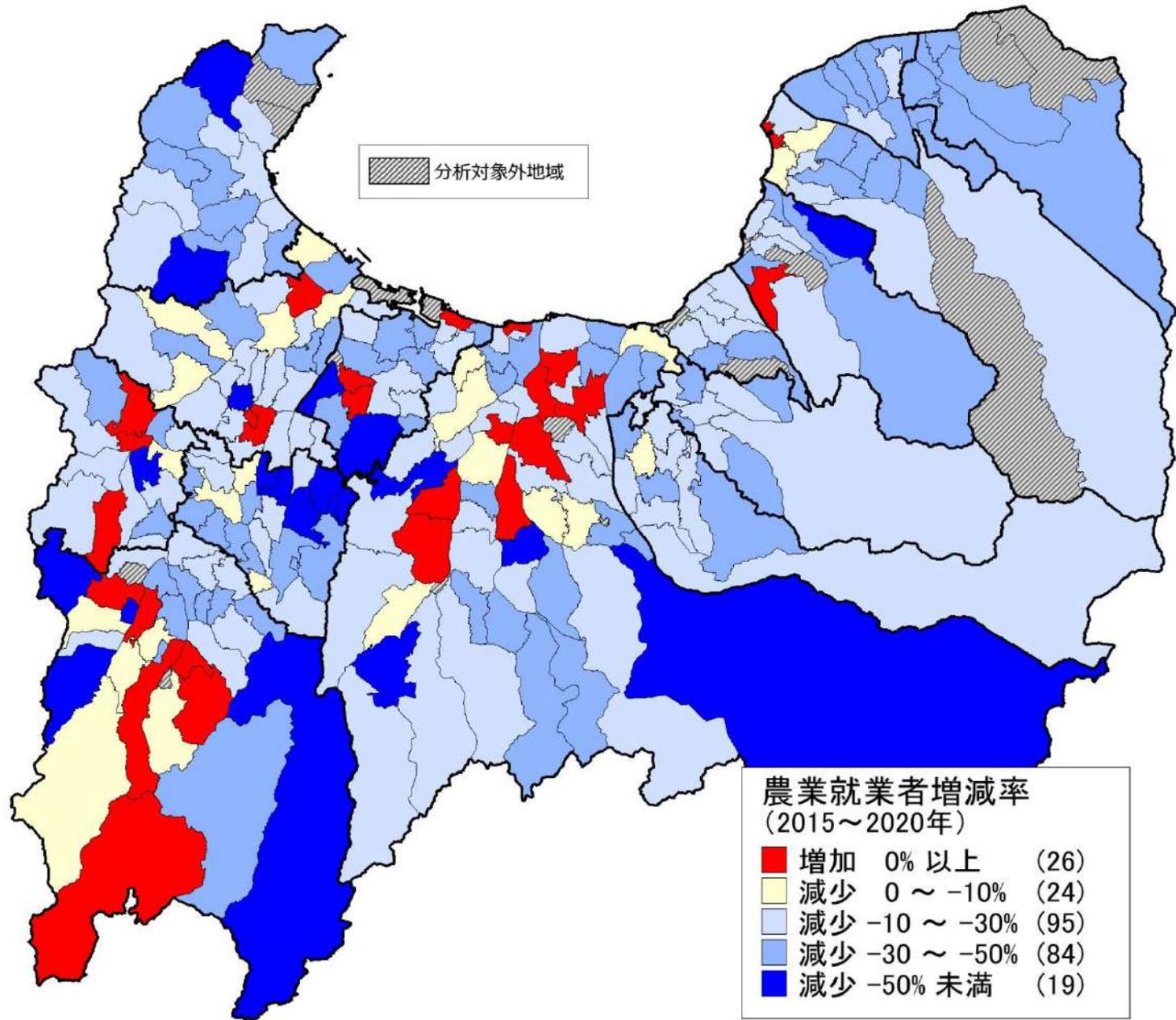
各57人、計114人

地区合計342人

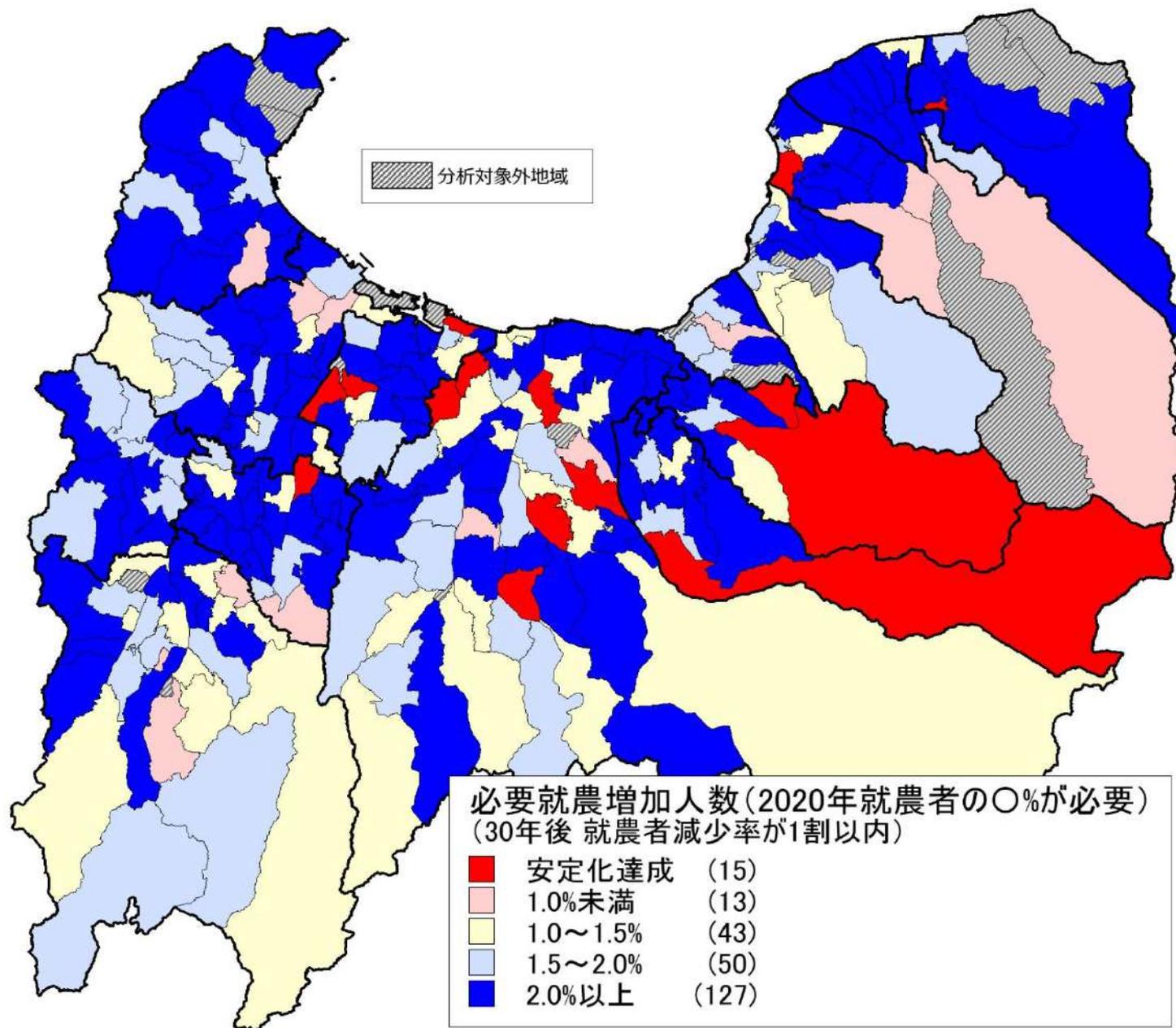
① 今後の就農者・高齢化率予測



■富山県の全県地区別人口診断～①2020年 農業就業者増減率



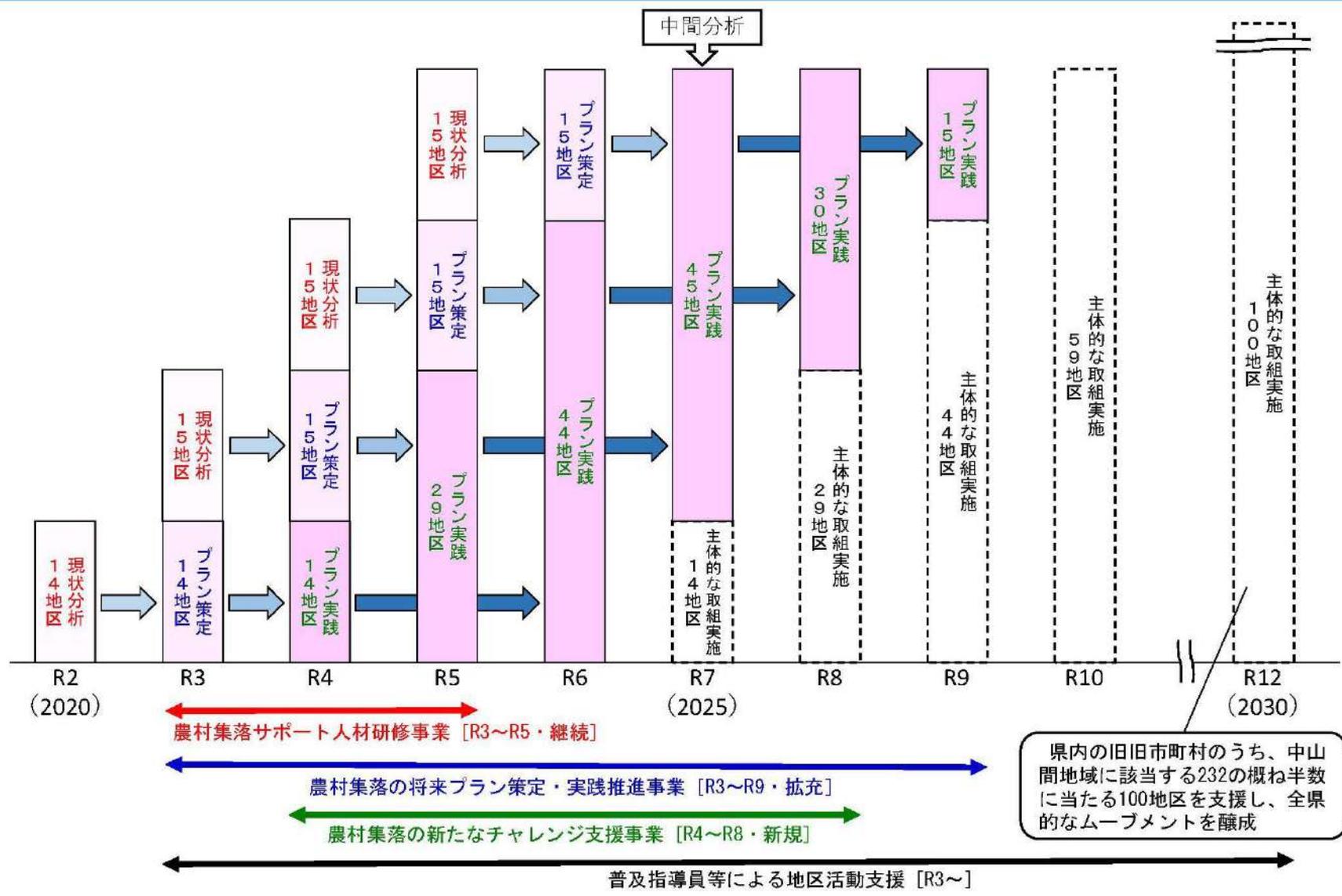
■ 農業就業者維持 必要就農増加人数 (現在就農者の〇%必要か)



4. 県全体をつないだ農村の担い手づくりプロジェクト

「新潟県ビレッジプラン2030」～10年継続の地域づくりリーグ

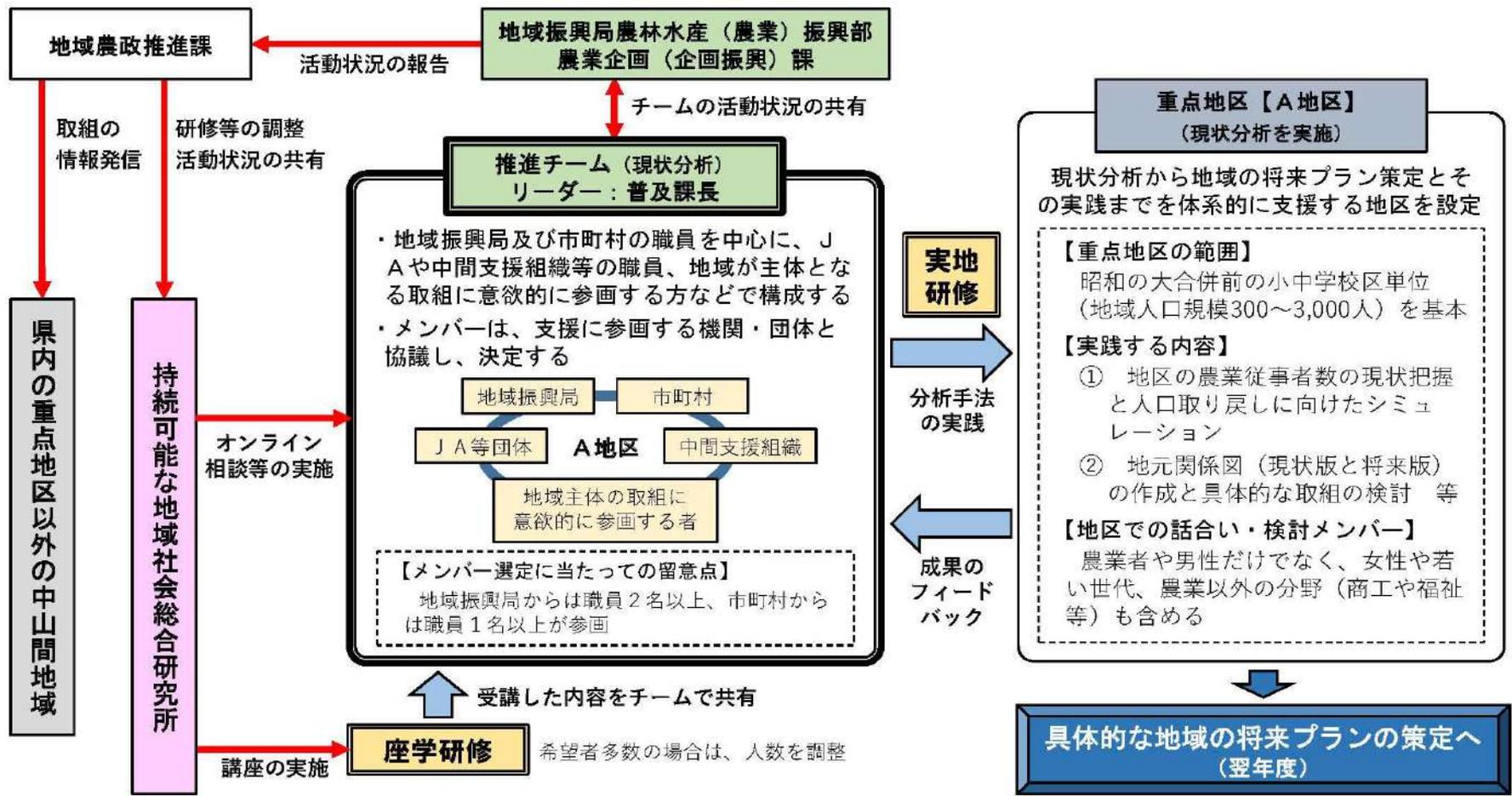
ビレッジプラン2030の支援地区数



1年目は、しっかりした就農・地域構造の診断を基に話し合いを促進

【事業スキーム】 農村集落サポート人材研修事業

10年後も持続可能な農業・農村を実現するため、営農の継続や集落機能の維持に向けた地域の将来プランの策定や活動組織づくりなどに取り組みたい地区や必要と考えられる地区を市町村等と協議のうえ設定し、現状分析等の手法を地区での実践を交えて研修することで、地域の主体的な取組に意欲的に参画する方や、それを的確にサポートできる人材を養成する。

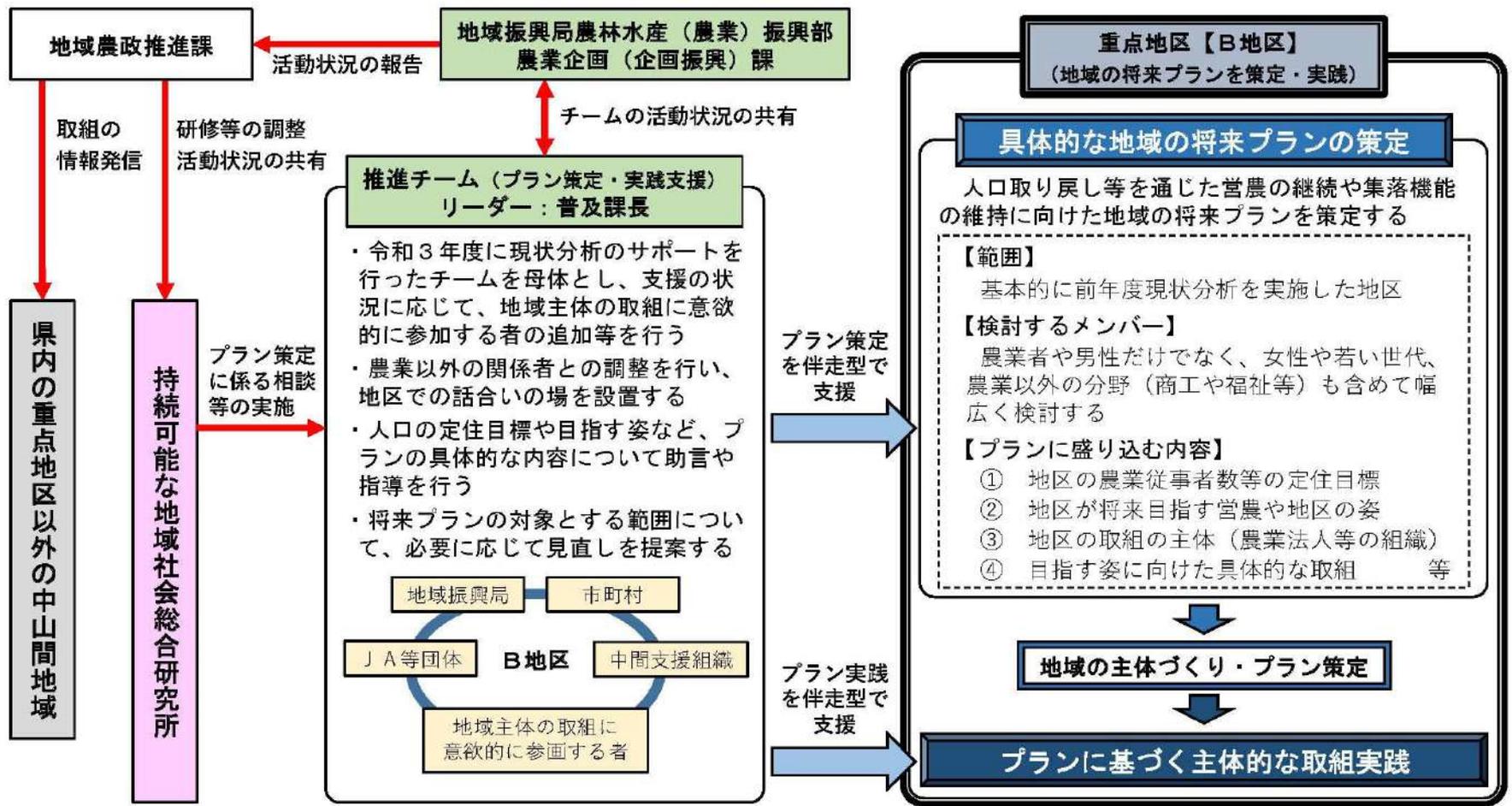


地元住民・JA・市町村・県等による推進チーム＋チーム同士の学び合いの相乗効果

2年目は、1年目の診断と話し合いを基に具体的な将来プランを策定

【事業スキーム】農村集落の将来プラン策定・実践推進事業

農業従事者数のシミュレーションや地元関係図の作成を行った地区において、前年度の分析結果を生かし、地域の将来プラン（概ね10年後を基本）の策定やその実践、活動のエンジンとなる農業法人等の組織づくりなどの中長期的な取組を、伴走型で支援する。



農業分野だけに留まらず、地域ぐるみで定住を支える仕組みづくりがねらい。

3年目以降、実践段階の地区には、チャレンジ支援事業を準備

【事業スキーム】 農村集落の新たなチャレンジ支援事業

ビレッジプラン実践事業の重点地区が策定した将来プランの実現に向けて、これまで実施してこなかった取組等に新たに着手するなど、計画した活動の本格的な実践に先立って行う準備や試行的な取組を支援し、地区の農業者や住民等が小さな成功体験を経験・共有することで、その後の農業者等が主体となった具体的な取組につなげる。

事業スキーム

1 目的

人口の取り戻し等を通じた営農の継続や集落機能の維持に向けた将来プランの実現のため、本格的な実施に先立って、地域が行う準備や試行的な取組を支援する。

2 事業主体

将来プラン策定地区内の農業者等が組織する団体

3 内容

策定したプランに位置づけた営農の継続や集落機能の維持に向けた取組の準備・試行を支援する

- (1) 地域の活動主体となる組織（農業法人等）づくり
- (2) 地域で新たに農業に従事する者などの所得機会の確保
- (3) 農業従事者等の確保・定着に向けた仕組みづくり
- (4) その他営農の継続や集落機能の維持に向けた取組

4 補助率 定額 1年目：上限500千円／地区
2年目：上限250千円／地区

プラン実践支援の1、2年目（ビレッジプランでの支援3、4年目）を対象に支援

5 事業費 7,000千円（14地区×500千円）

6 事業対象地区

地域において人口の取り戻し等を通じた営農の継続や集落機能の維持に向けた将来プランを策定していることを要件とする。

7 その他

1地区が申請できる件数は1件とし、最長2か年の事業申請を可能とする。

想定される事業主体

- ・複数の町内会や農家組合で組織する団体
- ・中山間地域等直接支払制度の広域協定や複数の集落協定で組織する団体
- ・複数集落にまたがり営農等を行う農業法人
- ・地域の各種協議会 など

支援する取組のイメージ



地域の学生と連携した新たな所得確保につながる地域の栽培品目の調査・整理



地域の農産物を利用した加工品試作や、地域に移住した方も携われる体制の検討



農家民宿や空き家を活用した定住希望者のお試し移住



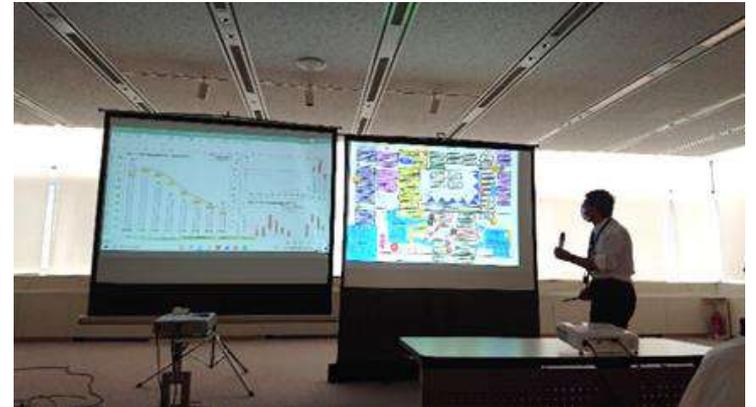
地域の窓（集いの場）となる月一朝食会の試行

新たな取り組みの試行を後押し、その成果と課題を地区内で共有していく。

農村集落サポート人材研修事業連続講座(全3回、15チーム100人)



1回目～藤山講義、人口分析・地元関係図習得



2回目～地元と取り組んだ就農目標・地元関係図の共有

現地支援～直接現地に出向き、視察&話し合い支援&展開提案



上越市清里地区検討会



小千谷市真人里地区の農地視察



胎内市鼓岡・大長谷地区「里の駅 いちべえ」と現地検討会



事例：十日町市川手地区将来プラン ～地域が目指す姿と就農・定住目標～

○ 地域が目指す10年後の姿

- 1 集落の農業・農地を維持していける
- 2 住民が集落の暮らしや農業を楽しみ、集落外の人に魅力を伝えていける
- 3 地区のファンが多くいて、離れていても関わり合いをもっていける

現在の状況
人口161人

高齢化率56.5%

基幹的農業従事者
13人
(2020年データ)

○ 基幹的農業従事者の定住目標

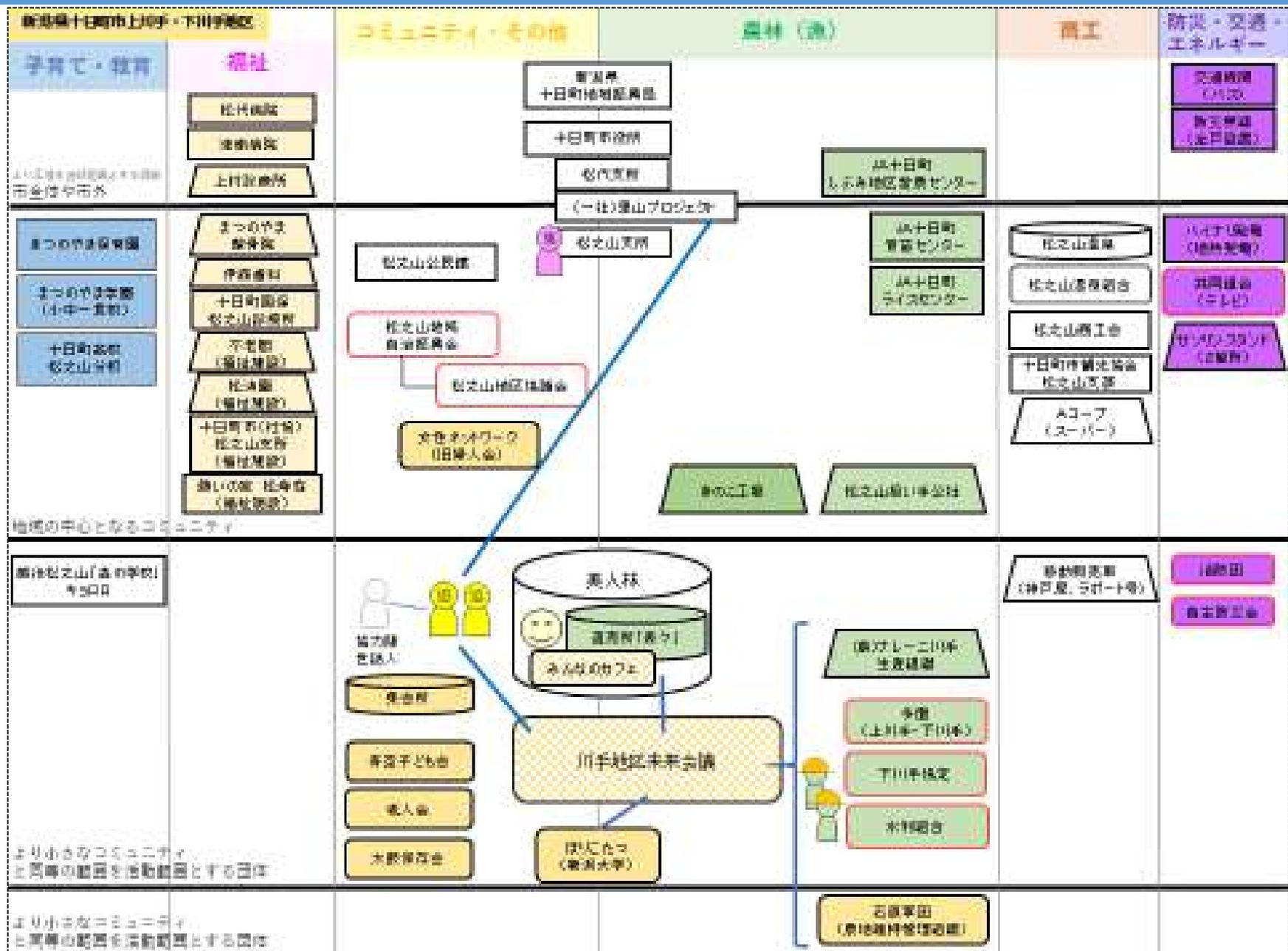
・30代前半夫婦
0.15組/年



2032年までに
3人確保



十日町市川手地区将来プラン ～ 将来の地元関係図 ～



十日町市川手地区将来プラン ～ 重点的に取り組む内容 ～

1 農業の仕組みづくり

①新規就農者の受入、定着に向けた体制整備

②持続可能な農業基盤の整備

(取組主体:(農)ナレーニ川手、担い手農業者)

2 定住につながる仕組みづくり

③地域おこし協力隊の募集、定着 (取組主体:協力隊世話人)

④集落の魅力創出、発信 (取組主体:川手地区未来会議)

3 交流の場づくり

⑤観光名所「美人林」直売所の活性化 (取組主体:直売所「森々」)

⑥女性の交流・活躍の場づくり(取組主体:女性グループ)

十日町市川手地区将来プラン ～ 取組スケジュール ～

重点取組	具体的な取組内容	
	短期的(1～3年)	中期的(3～5年)
①新規就農者の受入、定着に向けた体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・農業研修生の募集・受入 ・雇用創出に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・独立就農または法人就業支援 ・経営力向上支援(研修への派遣等)
②持続可能な農業基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・条件不良ほ場のゾーニング ・水稻収益安定化に向けた勉強会の開催 ・雇用創出に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほ場・水路・農道の整備 ・雇用創出、拡大 ・直売所との連携
③地域おこし協力隊の募集、定着	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の募集 ・空き家の確保、整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動支援 ・地域おこし協力隊の募集 ・空き家の確保、整備
④集落の魅力創出、発信	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生とのワークショップ開催 ・交流体験メニューの検討、実施 ・川手地区未来会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・PR活動
⑤観光名所「美人林」直売所の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織の再編 ・新規出品者の確保 ・新商品(品目)の導入検討 ・栽培技術向上のための研修会開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所の改築に向けた検討(仕組みづくり等) ・新規出品者の確保
⑥女性の交流・活躍の場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の交流・活躍の場づくりに向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流会の立ち上げ ・地域貢献活動の検討

継続、未来会議で随時見直し

川手地区で楽しい暮らしと農業を！

【地区での暮らしのイメージ（30代の子ども連れご家族）】

●当面の仕事

お父さん：農事組合法人ナレーニ川手に就業できます（農作業全般、経理事務に従事）。

※会社に勤めながら、土日のみ農作業を行うことも可能です。

※個人経営也大歓迎です。農地や機械の取得についても支援致します。

お母さん：集落近辺の温泉施設や福祉施設、きのこ工場等に勤務できます。

お子さん：集落近辺のまつのやま学園（小中一貫）又はまつのやま保育園に通学できます。

●住居

- 地区内に数件の空き家がござい
ます。見学もできます。

●地区の観光資源

- 美しいブナ林で有名な「美人林」
- 森の学校「キョロロ」

●移住を希望される方へ

- 地区の暮らしや農業の維持に向けて、定期的に集会を行っています。
みんなで楽しくアイデアを出し合い、一緒に地区を盛り上げていきましょう！



上川手：田園風景



下川手：美人林

5. 次世代の定住、就農を実現する組織づくりとは？

東かがわ市五名地区
283人、53.4%



薪ステーションは、毎年300トンを
地域内外に供給中。

毎年のように、定住増加を実現
「五名ふるさとの家」はカフェレストランを週4日営業

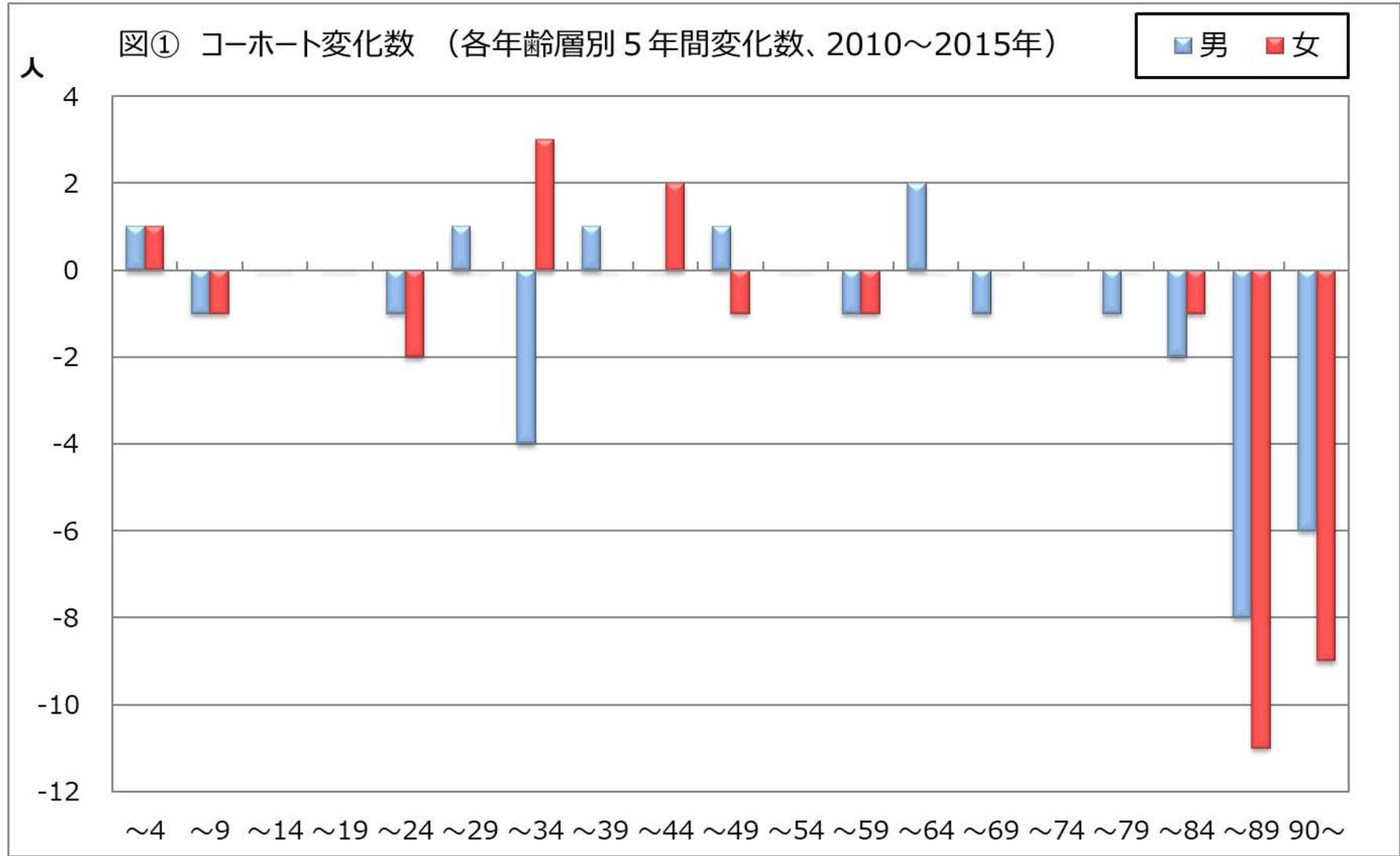


1ターナーも運営に参画



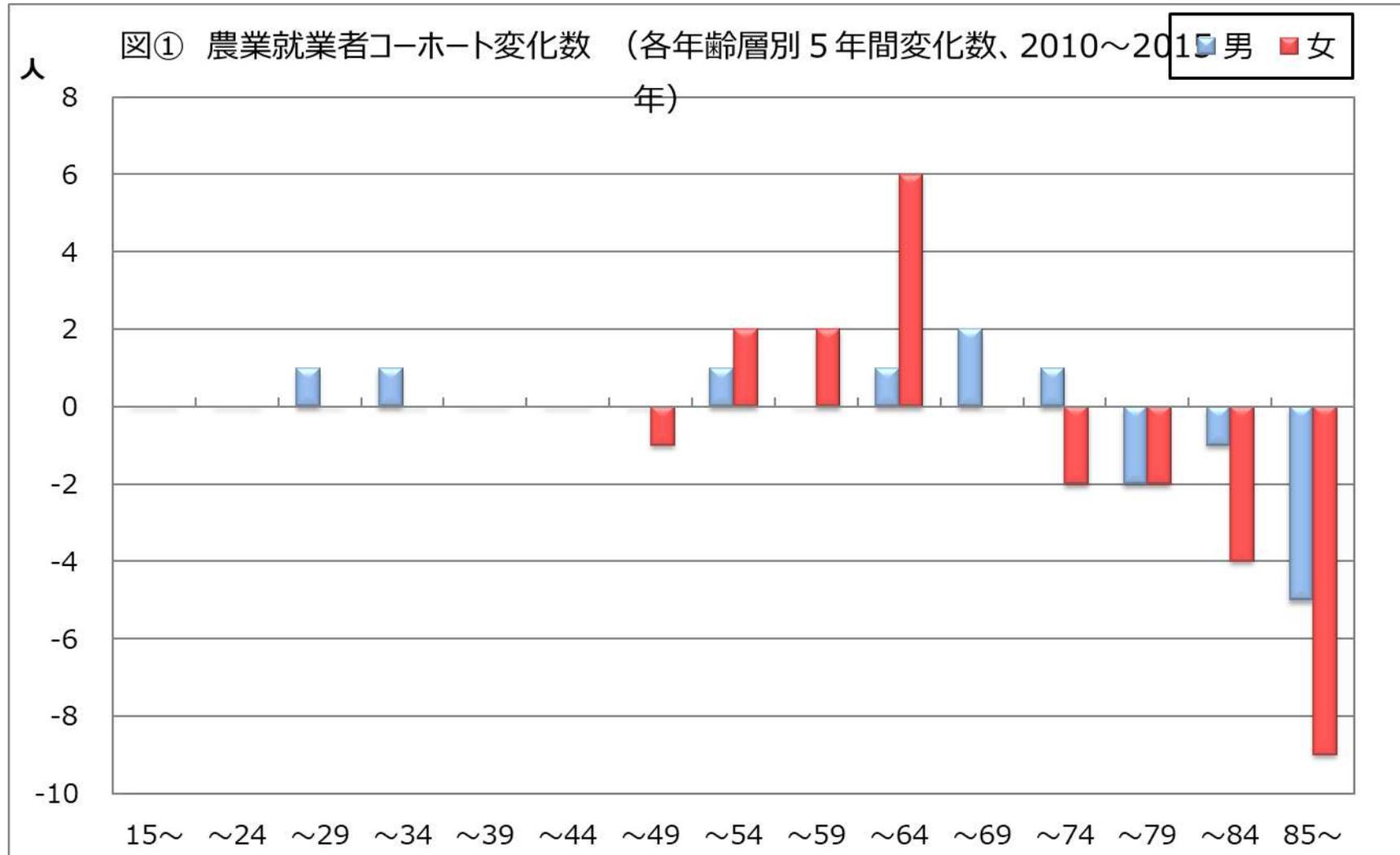
店内には、農産物・加工品・工
芸品がならぶ

地域人口全体：年齢階層別人口増減(流出入)数



幅広い世代での流入超過あり。

農業就業人口：年齢階層別の人口増減（流出入）数



50～60代を中心に新規就農が目立つ
特に女性が目立つ

香川県東かがわ市五名地区

コミュニティ・その他

農林（漁）

商工

防災・交通・エネルギー

子育て・教育

福祉

- 白鳥保育所
- 恵愛保育所
- 白鳥幼稚園
- 白鳥小中学校
- 香川大学

より広域を活動範囲とする団体
市全体や市外



県普及部
JA

農業委員会
東讃
猟友会

市農林水産課
森林
組合

商工会議所

東かがわ市
福祉バス
消防団

五名活性化センター

五名活性化協議会

五名ふるさとの家

出張診療所

- 連合自治会
- 老人会
- 山村クラブ
- 女性部

JA香川県五名支部女性部

五名里山を守る会
薪ステーション

集落営農組織
五名ファーム

五色の里

直売所

飲食

- 五名やまびこの宿
- のうさぎカフェ
- つばめビール
- 移動販売 2
- ギャラリーかぐや草
- 陶芸家 2

自主防災組織
東かがわ市福祉バス

地域の中心となるコミュニティ

- 開世自治会
- 日東自治会
- 共栄自治会
- 日西自治会
- 鈴南自治会
- 鈴北自治会
- 掛橋自治会
- 大北自治会
- 更正自治会
- 大下自治会
- 東大橋自治会
- 影木屋自治会
- 大柳自治会
- 宮川自治会
- 北進下自治会
- 八丁自治会
- 大家自治会
- 角上自治会
- 黒川自治会
- 下払川自治会
- 上払川自治会

- 下日下集落協定
- 上日下集落協定
- 鈴竹集落協定
- 大橋集落協定
- 東大橋集落協定
- 影木屋集落協定
- 長野集落協定
- 下払川集落協定
- 上払川集落協定

長野地域資源
保全会

より小さなコミュニティ
と同等の範囲を活動範囲とする団体

より小さなコミュニティ
と同等の範囲を活動範囲とする団体

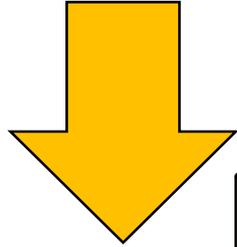
2001年
(平成13年)

五名活性化対策委員会

直売所

五名ふるさとの家

中心となった
地域体制の
進化例
(中尾・特別研究員)



2005年
(平成17年)

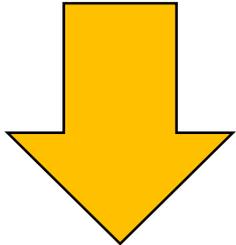
五名活性化センター

五名活性化対策委員会

五名里山を守る会
(2006年/H18)

直売所

五名ふるさとの家



2013年～
(平成25年)

五名活性化センター

五名活性化協議会

五名里山を守る会
(2006年/H18)

直売所

薪ステーション

飲食
新・五名ふるさとの家

五名やまびこの宿

のうさぎカフェ

つばめビール

邑南町出羽地区の取り組み

● コミュニティ × ● 農業 = 地域発展

● 地域自治組織の立ち上げ
(12集落→「出羽自治会」)

* 総務部、生活部、交流部、産業部の設置

人口913人、高齢化率37.8%
集落数 12 (2010年)
出羽公民館区

将来像の共有

● 「出羽夢づくりプラン」の作成

1,764万円

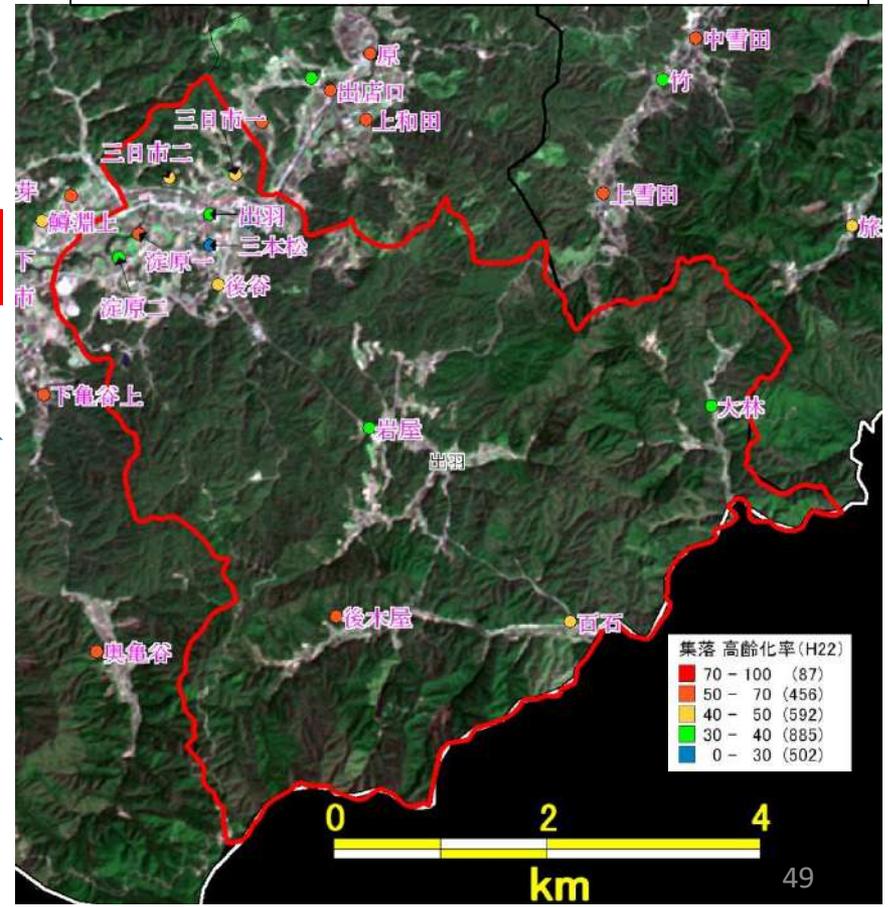
● 直接支払い11協定の大合併

会計事務

● 人材バンク(お助け隊)設立

● 地域マネージャー雇用

● 耕作放棄地2ha再生



出羽自治会

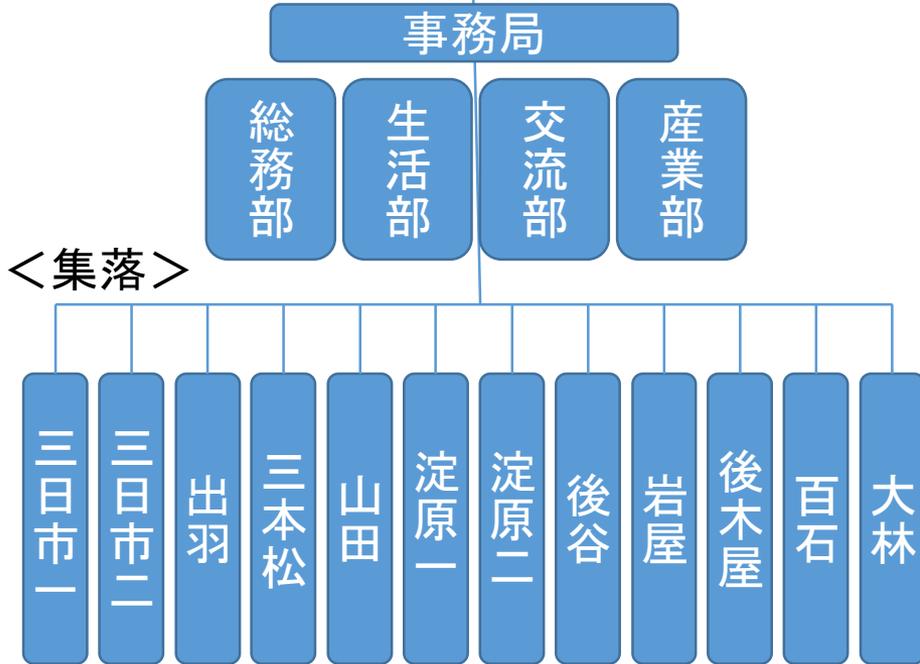
= 出羽公民館エリア



連携

合同会社 出羽

自治会の機能だけでは難しい、収益事業、空き家対策、産業等について、機動的に対応できる実働部隊として2013年に設立。資本金539万円 出資社員17名（設立時6万円、6名）

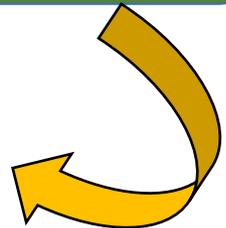


農業部門
 農地集積32ha
 放棄地活用
 新規就農支援

定住部門
 空き家活用
 (修繕、賃貸)
 起業支援

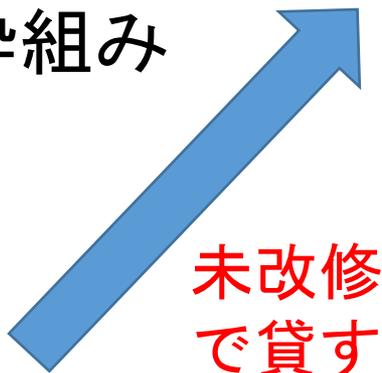


* 今年、
2代目
就任



起業支援
でパン屋も
オープン

島根県邑南町
出羽地区の
空き家活用の
枠組み



所有者

合同会社 出羽

表裏一体

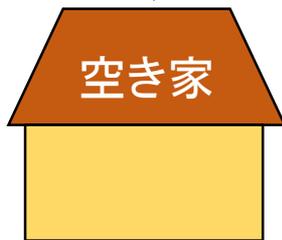
地元自治組織

改修し
貸し出し
家賃収入

連携

地元工務店

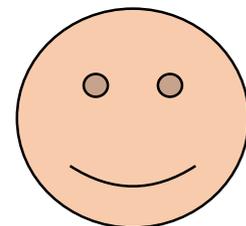
工事实施



空き家



安い家賃
1～2万円



移住者

融資や
助成金

県・定住財団

金融機関

無理をせずに「モーニングの日」から！

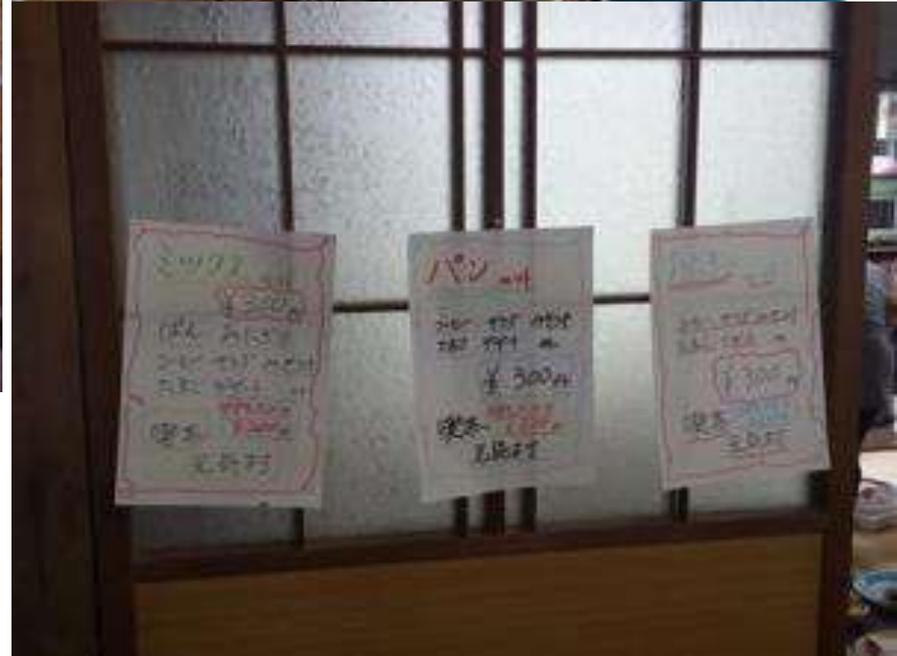


高知県土佐清水市斧積地区(人口200人)

場長区積弁

村きんげん茶喫





月1回「モーニングの日」
200人の集落に200人が集まる！

見えてきた元気な農村をつくる10か条(藤山)

- **生態系** ~ 地域全体としての多角形のつながり
- **集い** ~ みんなが集まり、話す場や機会
- **連結** ~ 地域全体をつなぐ組織や人材、拠点
- **連関** ~ 生産だけでなく、加工・販売も連動
- **女性** ~ 女性が活躍するポジションがある
- **後見人** ~ 移住者や若者を支えるベテラン住民
- **法人** ~ 機動的に動く会社・事業組織が存在
- **楽しみ** ~ 暮らしを豊かにするアートやサークル
- **窓** ~ 閉鎖的でなく、外との交流の窓口がある
- **情報** ~ 地域内外への情報発信・共有のしくみ

2050年までに循環型社会へ転換

+ 長期展望 ~ 10年続ける覚悟と大きく変わる時代

新たな地域運営組織の形成エリア

一次生活圈

平均的な人口規模

●コミュニティ・行政単位の比較

「小さな拠点」エリア

「定住自治区」

のような自治と行政両面から位置づけへ

数万人～20万人程度

定住自立圏

合併市町村

総合病院
大型店
高校等の
機能共有

二次生活圈

都市拠点とのネットワーク機能

1,000～数万人

旧市町村

<平成の大合併>

(中学校区など)

<昭和の大合併>

300～3,000人

昭和の旧村

(公民館区
現・旧小学校区)「小さな拠点」

一次生活圈

人口定住の基本的単位

結節機能

70～80人(中四国)
200～400人(東北・北海道)

大字

<明治の大合併>

(藩政村) * 地方によっては集落と重なる場合も

- ①コミュニティの地元単位
- ②医療・福祉・教育・商業・交通等の一次機能

集落

* 最も基礎的・伝統的な地域運営単位

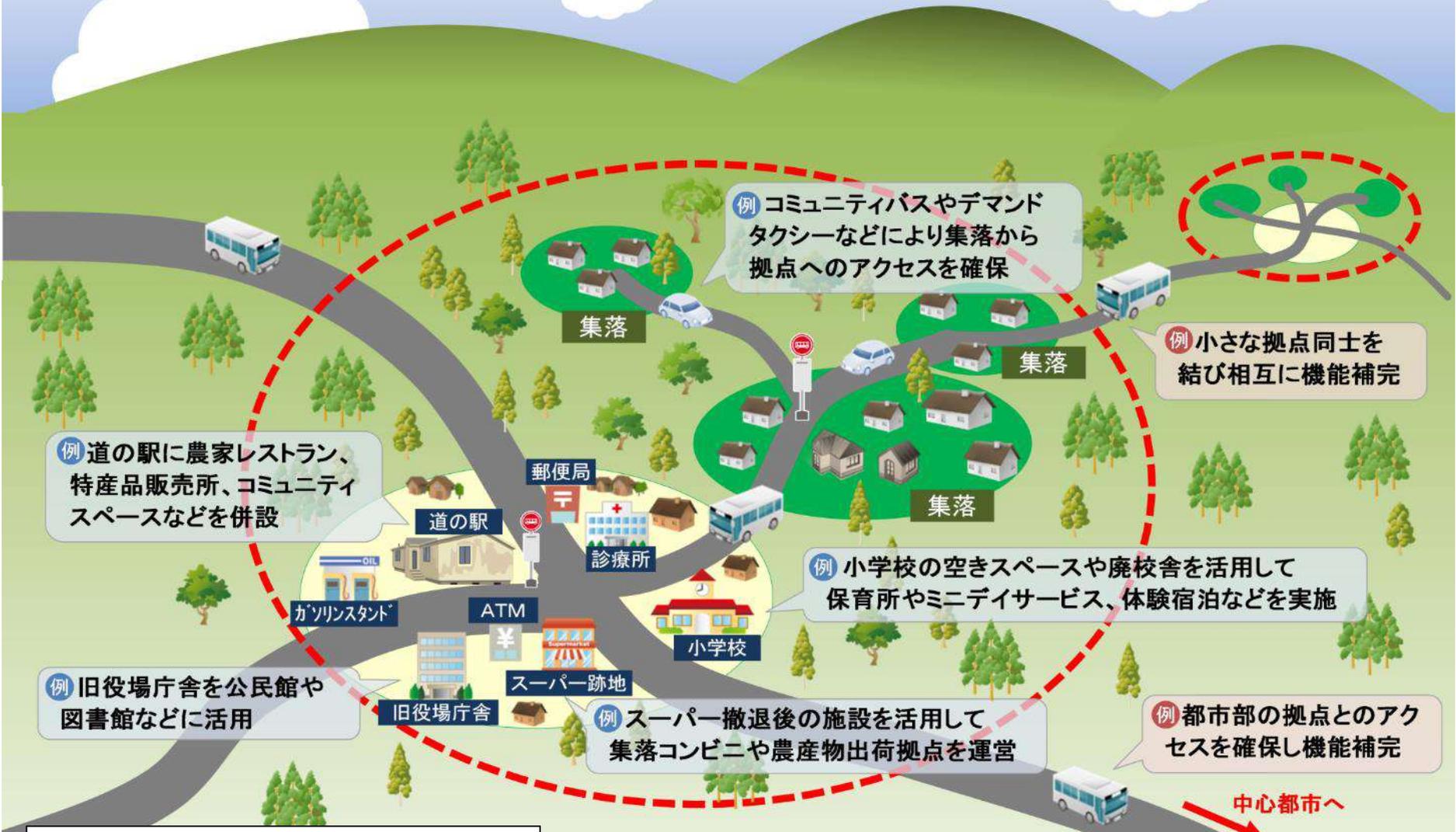
集落単独では定住を支える基本機能や活動が困難

各集落とのネットワーク機能

組 (小字など)

国土のグランドデザインと総合戦略にも、集落地域を支える新たな複合機能拠点として「小さな拠点」構想が登場

地元にて定住と循環の「砦」を創る

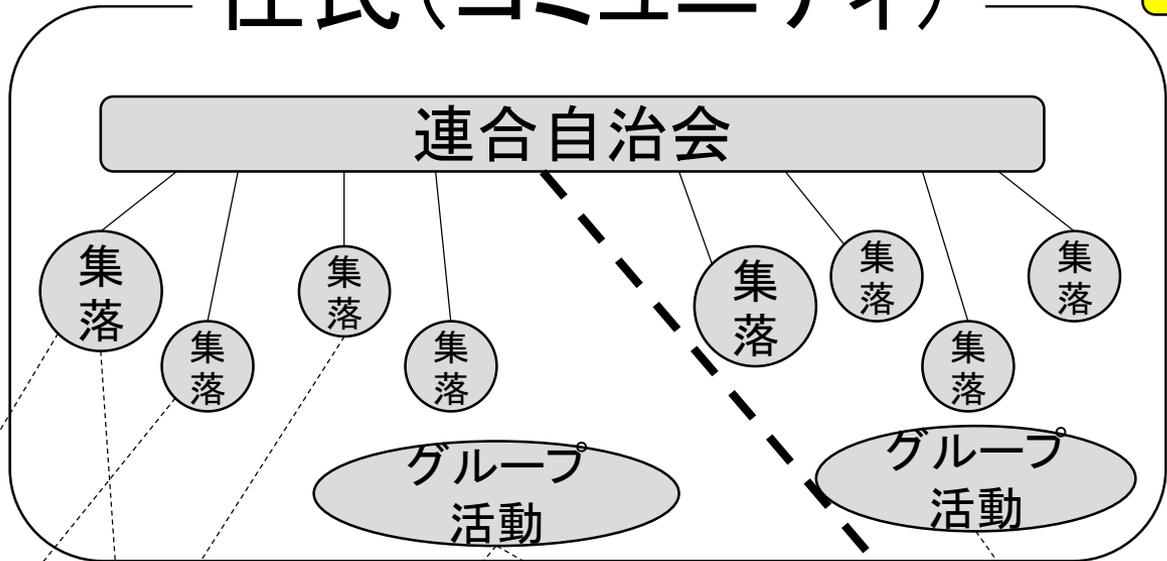


※実践編 「小さな拠点」づくりガイドブックより

従来型 地域運営 の問題点

ステップ②～⑥

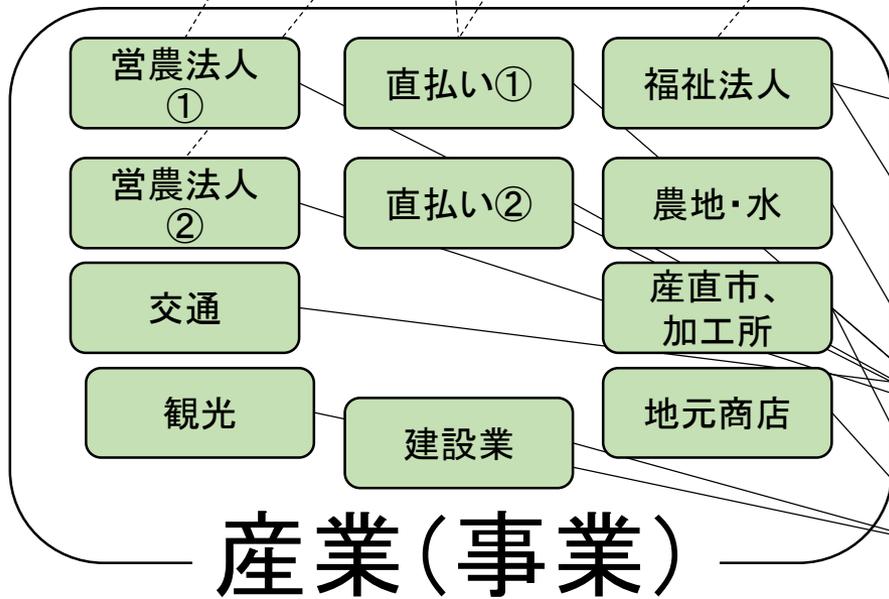
住民(コミュニティ)



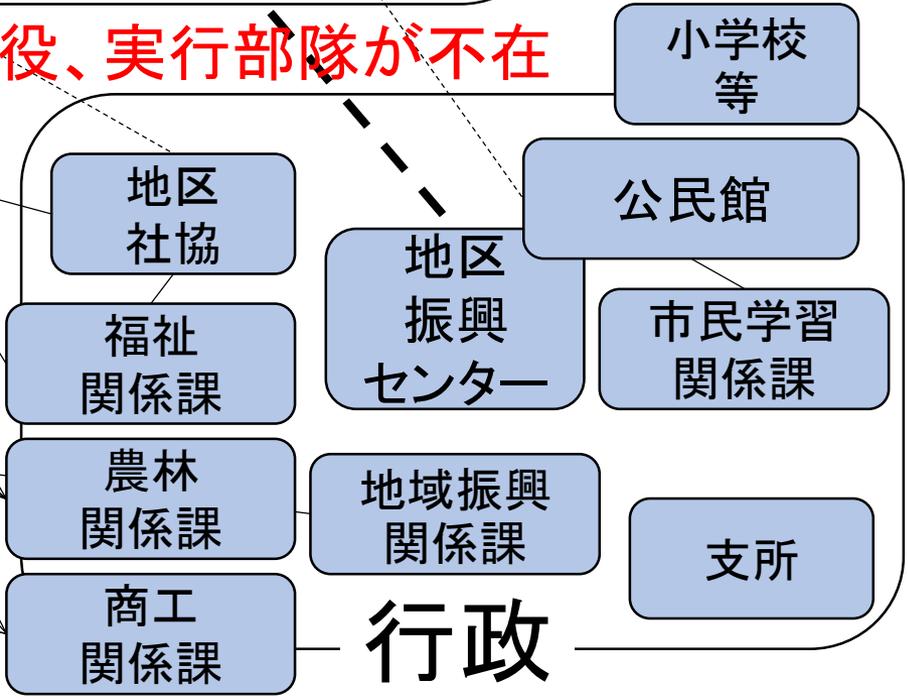
×横並び
の取組
み、年間行
事等の消
化

→地域の力
が結集でき
ない！！

×地域全体のつなぎ役、実行部隊が不在



産業(事業)



行政

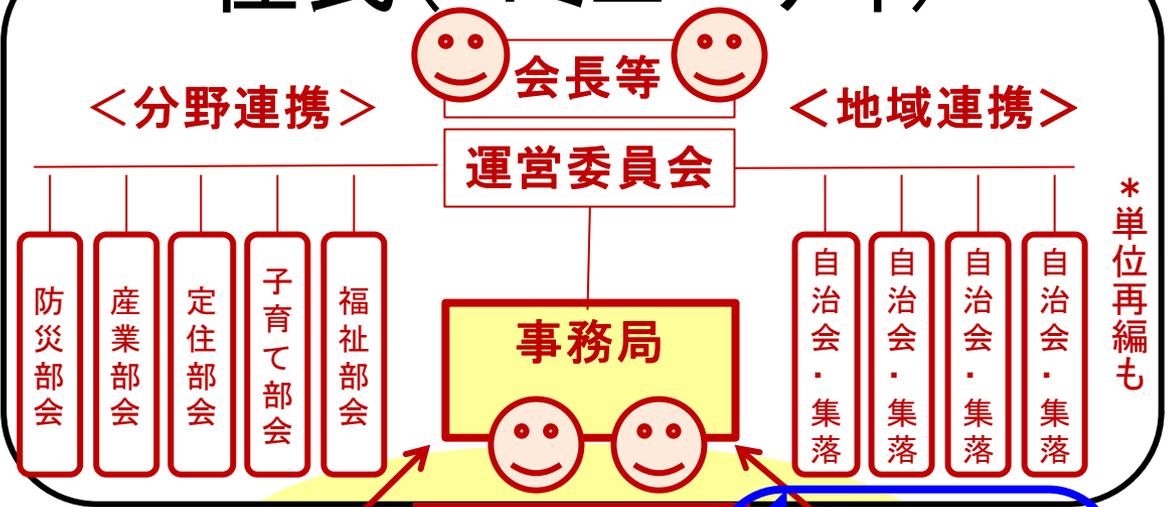
×事業体ごとの個別展開

×分野ごとの縦割り対応・支援

新しい 地域運営 の三角形

ステップ②～⑥

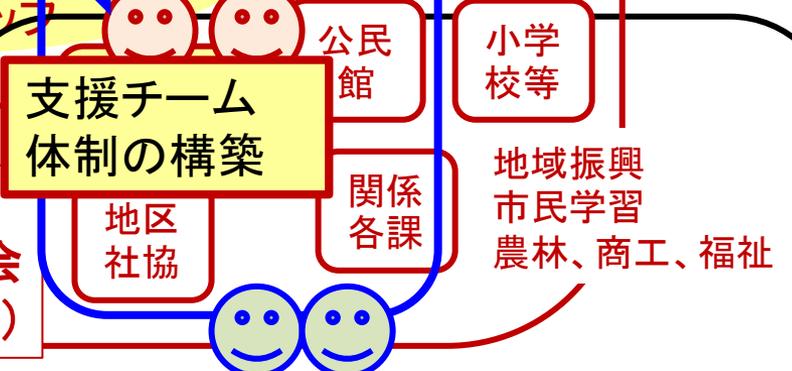
住民(コミュニティ)



●●地区振興協議会
(地域自治組織)

*単位再編も

地域マネージャー
事務局スタッフ
兼務



拡大
運営委員会
(円卓会議)

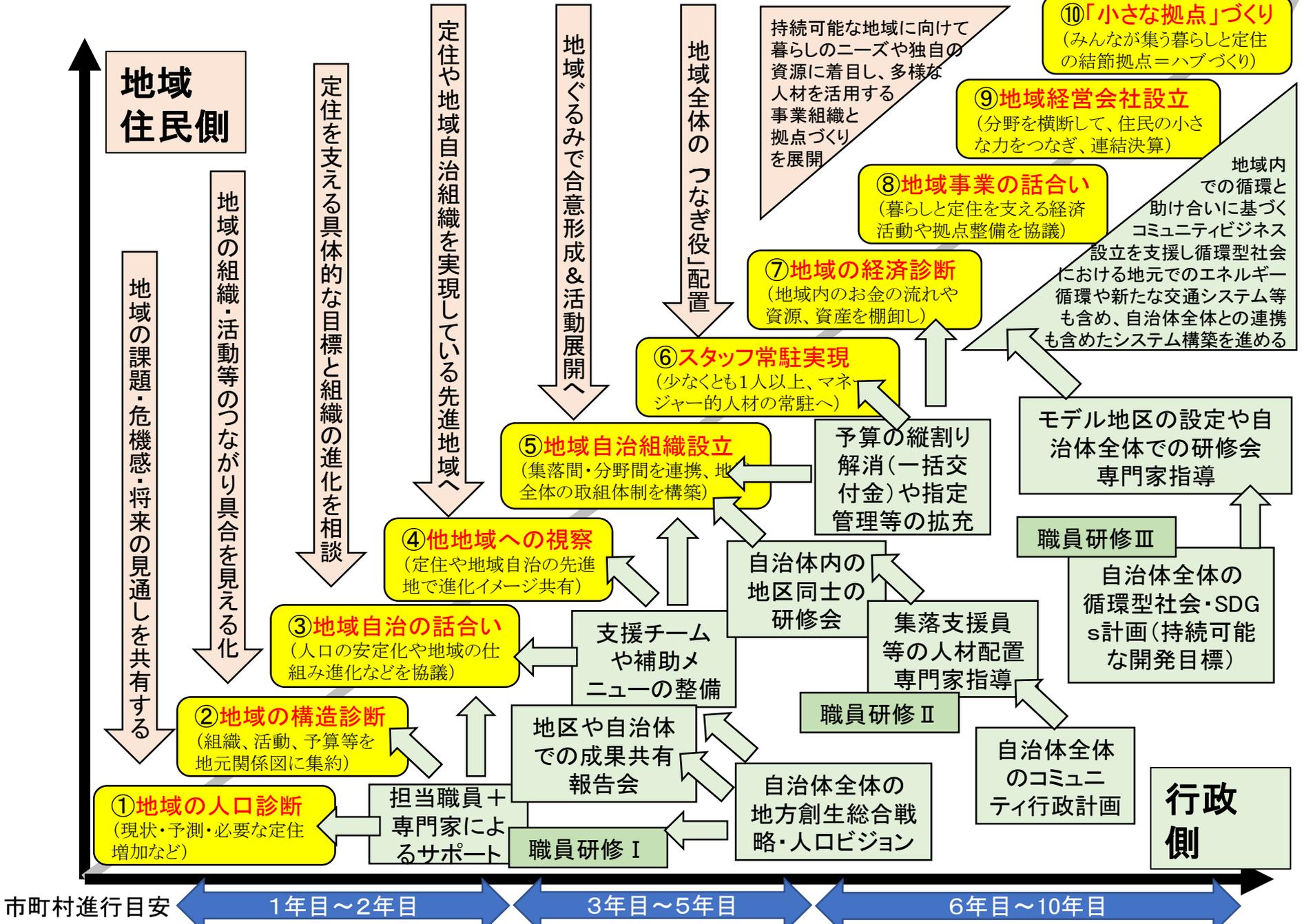
横つなぎ型法人の設立(分野横断型)
複数事業の合せ技や会計業務の集約など

産業(事業)

●●地区支援チーム(分野横断型)
市役所職員現場配置+地区担当制
公平性・公正さへの配慮(地区内外)

行政

持続可能な地域社会 10のステップ 進化イメージ

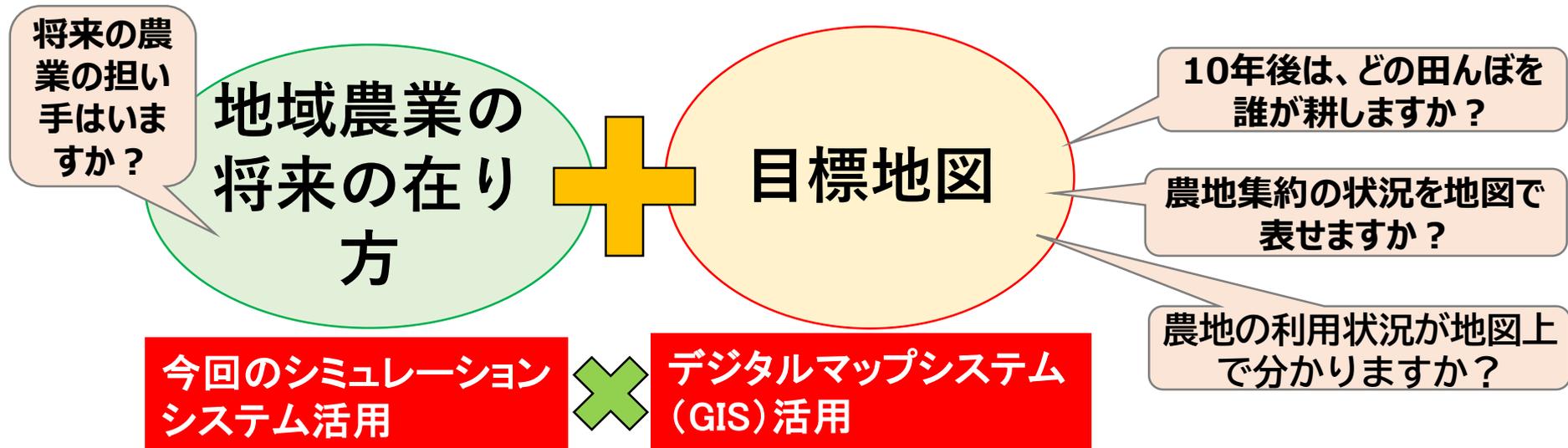


6. 「地域計画」の作成へ～土地資源を活かす～

(1) 人・農地プランを法定化し、地域での話し合いにより目指すべき将来の農地利用の姿を明確化する地域計画を定め、
(2) それを実現すべく、地域内外から農地の受け手を幅広く確保しつつ、農地バンクを活用した農地の集約化等を進めるため、基盤法等の改正法が令和4年5月に成立し、令和5年4月1日から施行されました。

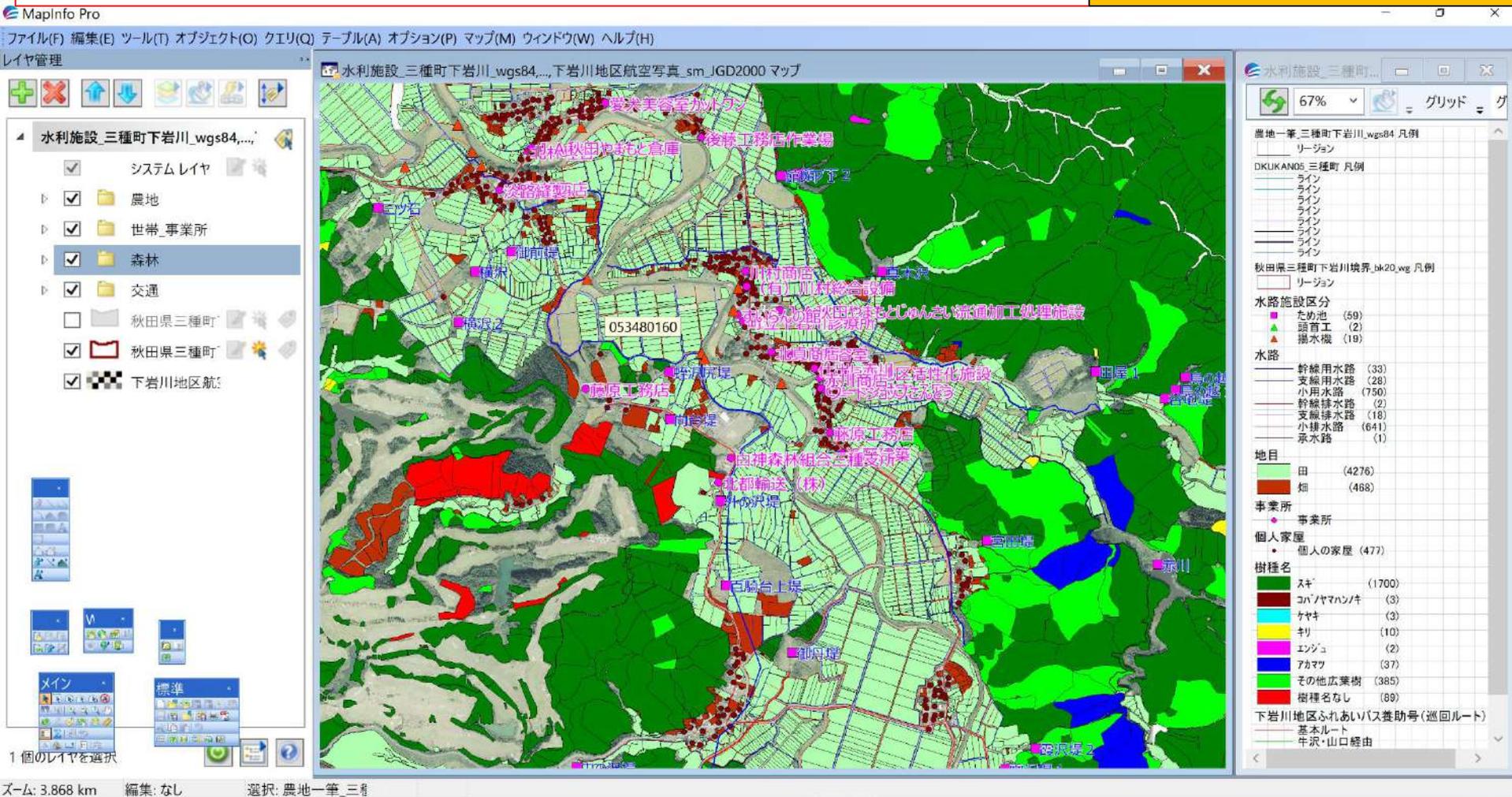
地域の皆様のご努力で守り続けてきた農地を、次の世代に着実に引き継いでいくため、農作業がしやすく、手間や時間、生産コストを減らすことが期待できる農地の集約化等の実現に向け、「将来、地域の農地を誰が利用し、農地をどうまとめていくか」、「農地を含め、地域農業をどのように維持・発展していくか」、地域一体となって話し合っていくことになります。

話し合いは、これまでの「人・農地プラン」のために設定した【地域の話し合いの場】を土台に、幅広い関係者（集落の代表者、認定農業者、農地所有者、若年層や女性、新規就農者、農業法人）に参加を呼びかけます。並行して「目標地図」の作成を進めていきます。



秋田県三種町下岩川地区(人口960人) における「持続可能性シミュレーター」開発事例

秋田県立大学との 共同研究

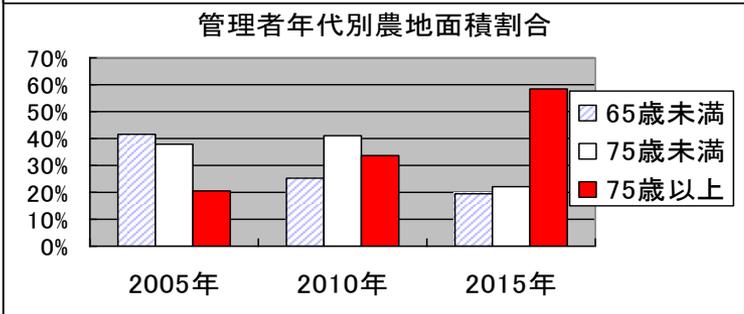
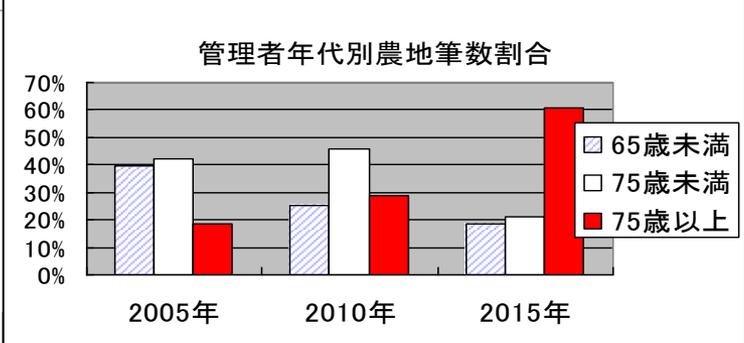
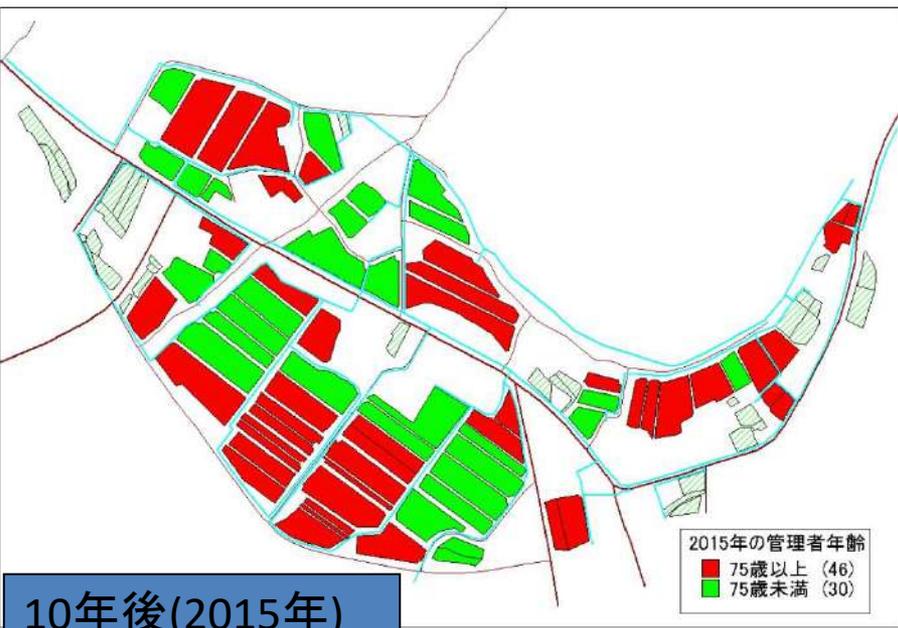
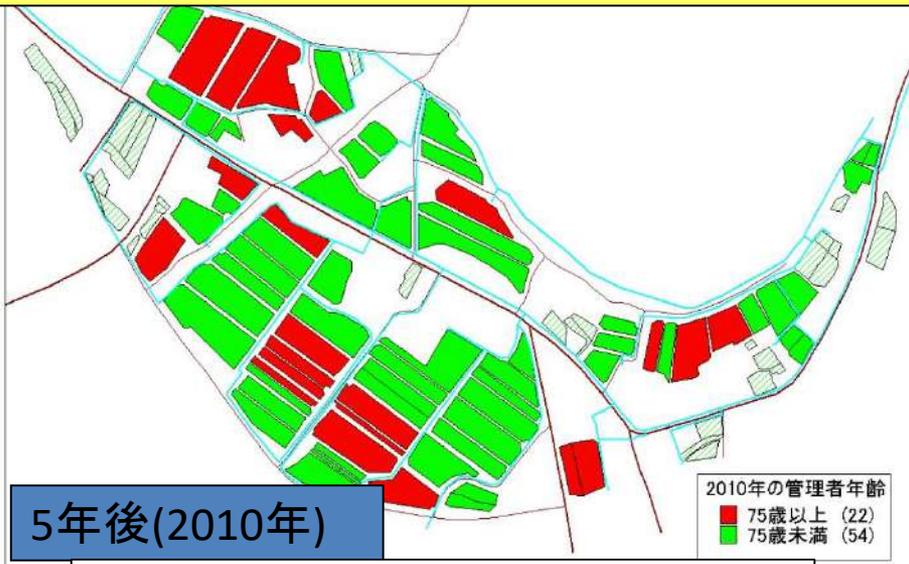
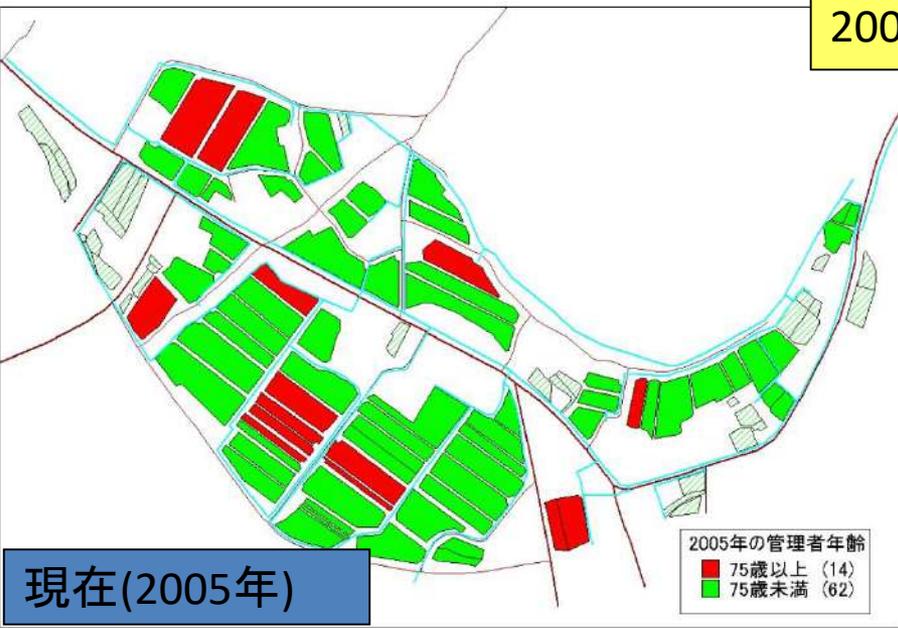


世帯、事業所、交通、森林、農地分野を重ねたGISデータベース構築

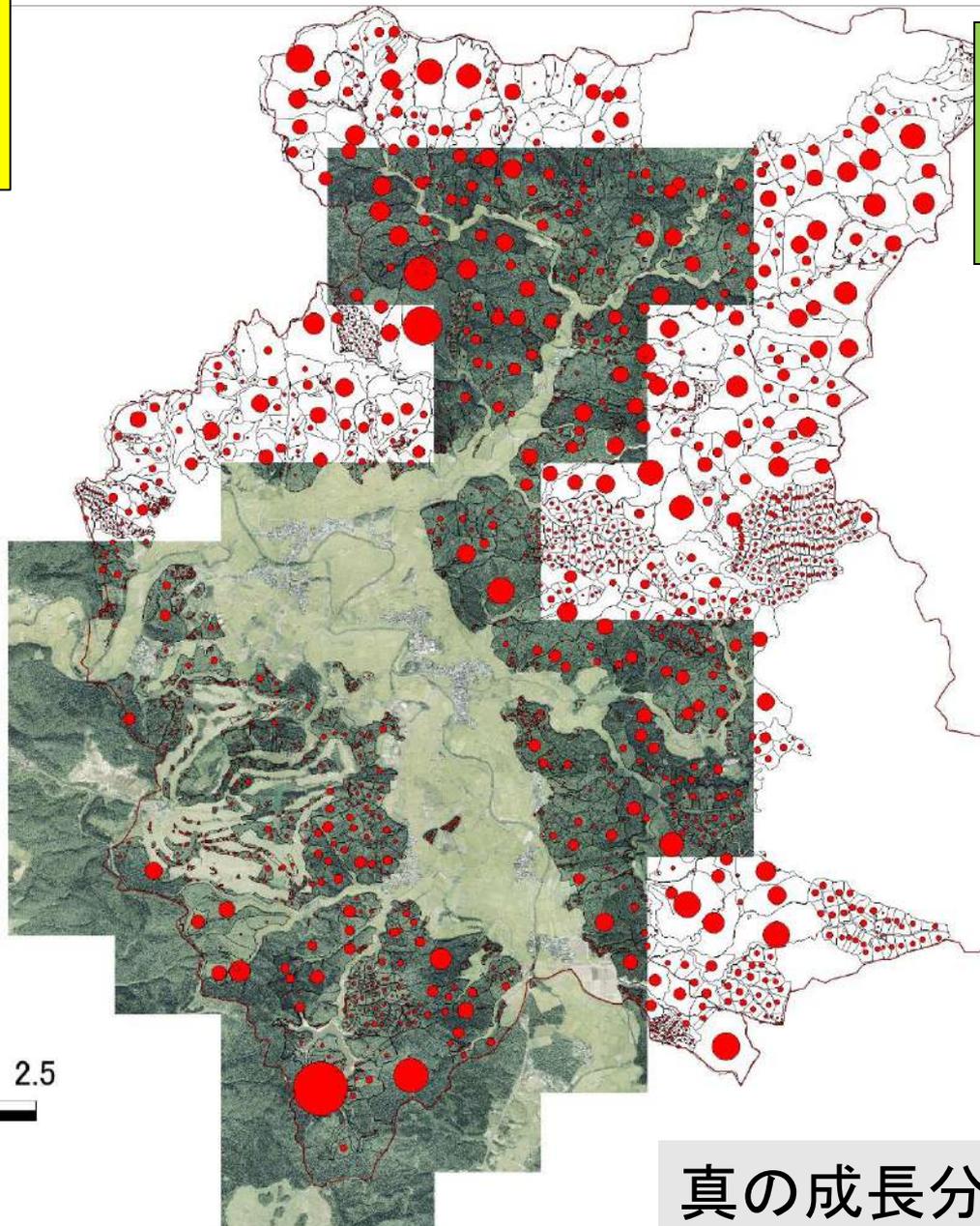
デジタル化→地域営農等のシミュレーション可能に

農地管理者年齢別 耕作状況の変化 (S県M市H町EH集落)

2004年 戸数67戸 人口151人 高齢化率39.1%

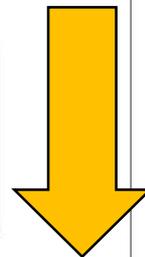
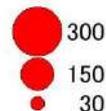


下岩川の森林
1年当たりの
成長量

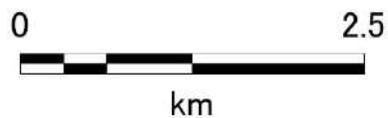


シナリオ例: 針
葉樹林の半分
を広葉樹転換

成長量 (m³/年)



28,000世帯、
56,000人～
85,000人分の
暖房・給湯エ
ネルギー供給
可能



縮尺: 1:47,300

真の成長分である「自然の
利子」を見える化し、実感



山口県初 水田での ソーラーシェアリング

山口市阿東町 「阿東つばめ農園」 おひさま発電所



ドイツ・家畜の糞尿でメタンガス発酵させ、電力と熱を創り出す牧場

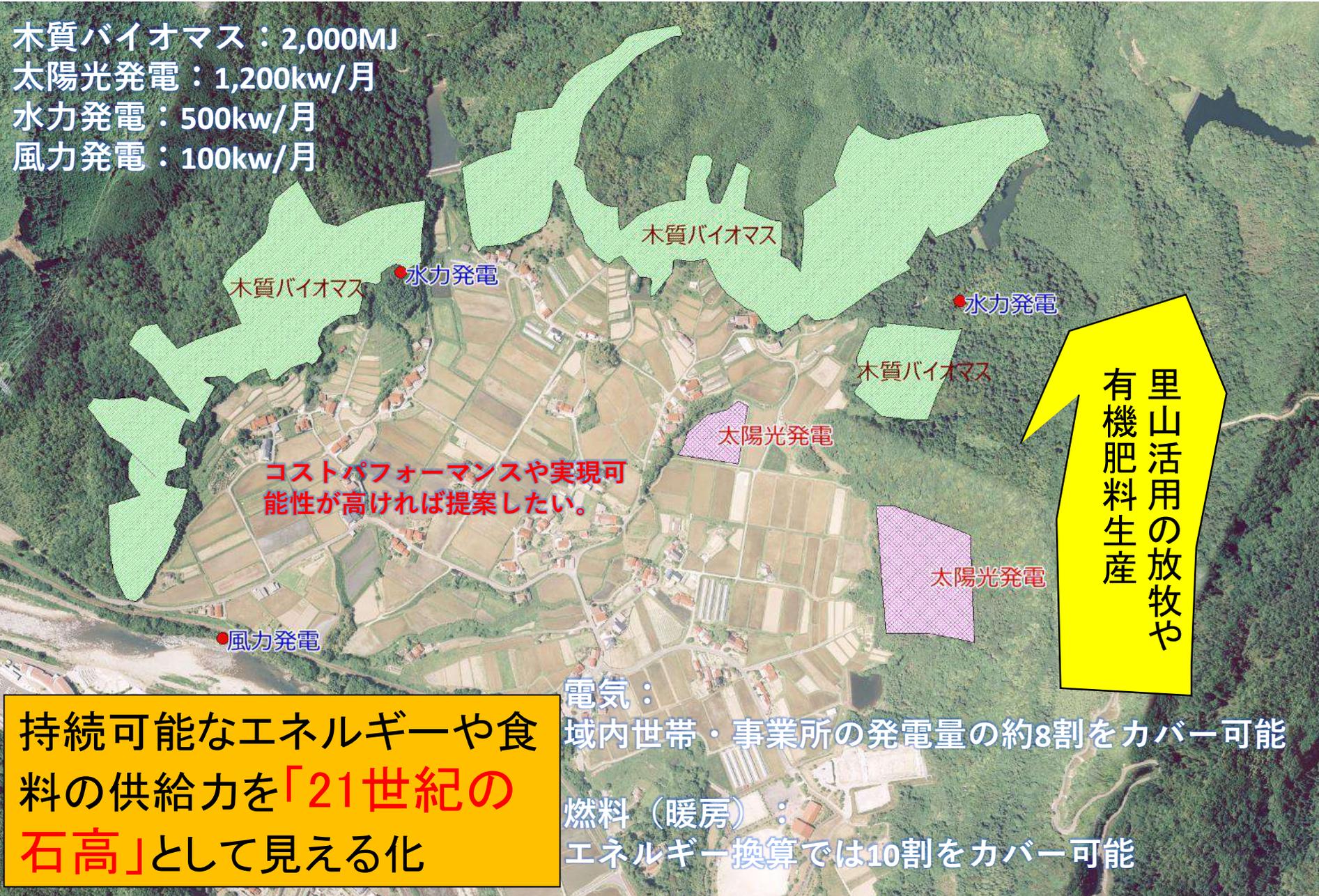
ドイツ・オーストリア
～各地で「エネルギー自
給村」が誕生

日本は周回遅れ！？



今後のエネルギーや食料、肥料等の域内自給のシミュレーションも

木質バイオマス：2,000MJ
太陽光発電：1,200kw/月
水力発電：500kw/月
風力発電：100kw/月



木質バイオマス

水力発電

木質バイオマス

水力発電

木質バイオマス

太陽光発電

コストパフォーマンスや実現可能性が高ければ提案したい。

太陽光発電

風力発電

里山活用の放牧や有機肥料生産

持続可能なエネルギーや食料の供給力を「21世紀の石高」として見える化

電気：域内世帯・事業所の発電量の約8割をカバー可能

燃料（暖房）：エネルギー換算では10割をカバー可能

都市と農山漁村とのパートナーエリア例

軽トラ市活動の発展



浜田市緑が丘団地広場にて月1回開催。
独居高齢者世帯が4割、タクシーで買い物も。

団地の子供会が
弥栄の小角集落の田んぼで遊ぶ



● 団地内への**防災ステーション**
(弥栄の米、水、薪を備蓄)設置